

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

＜学士課程＞

観点5-1-①： 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到に係る状況】

各学部の学科（課程）は、1）教育課程の編成、2）教育の実施体制、3）教育・指導の方法、4）成績の評価についての方針をまとめた「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を明確に定めている（資料5-1-①-A、参照資料5-1-①-1）。また、人間形成の中心的な役割を担う教育の根幹と位置付けている教養教育の全学共通の方針として、全学教育機構において「教養教育についての教育課程編成・実施の方針」（参照資料5-1-①-1）を定めている。

本学においては、観点5-3-①で後述するように、学士課程で学ぶ学生が卒業までに修得することが望まれる知識・技能・能力等を体系的に示す「佐賀大学 学士力」を定め（資料5-3-①-A【後掲】）、これに沿って各学部・学科（課程）は、各々の教育目的に照らして学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を卒業生が身に付けけるべき体系的学習成果の達成として定めており（参照資料5-1-①-1）、その達成に導くための具体的な方針を示すものとして「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」が明確に定められている。

資料5-1-①-A： 教育課程編成・実施の方針（経済学部例示）

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するため、以下の方針のもとに教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

- (1) 専門教育科目と教養教育科目を体系的・順次的に配置し、年間に履修可能な科目数の上限を設定し、4年間かけて履修するよう教育課程を編成する。
- (2) 教養教育においては3つの分野を通じて基本的知識を修得する。
 - (i) 基礎的な知識と技能の分野

文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（大学入門科目、基本教養科目、インターフェース科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（共通基礎科目）を、必修および選択必修として幅広く履修する。
 - (ii) 課題発見・解決能力の分野

高等学校と大学の接続を図るための授業科目（大学入門科目）と現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるための科目を選択して学ぶ（基本教養科目、インターフェース科目）。
 - (iii) 個人と社会の持続的発展を支える力、ないしは、社会を担う個人としての資質の分野他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を幅広く履修する（基本教養科目、インターフェース科目）。基本教養科目に関しては、社会科学系以外の自然や人文系科目も選択することにし、幅広い知識・情報を身につけるよう教育課程を編成する。
- (3) 教育組織を3学科に分け、以下の方針にそって専門科目を配置する。
 - ① 経済学・経営学・法律学の基本的知識を学習するために、各学科に「入門科目」「入門ゼミ」「基礎科目」を必修、選択必修科目として配置する。
 - ② 読解力・文章作成力、意見表明能力を養成するために、必修科目として1年生後期に「入門ゼミ」、2生後期に「基礎演習」、そして、3年生から4年生まで「演習」を配置する。
 - ③ 専門分野の知識を修得するために「コア科目」を選択必修科目として配置する。
 - ④ 幅広く専門知識を修得するため「展開科目」を選択必修科目として配置する。

- ⑤ 現実の把握と分析に理論を応用し、問題発見・解決能力を養成するために実践型授業を配置する。
- ⑥ 国際化に対応する能力を養成するために、「ビジネス基礎英語」「ビジネス・コミュニケーション英語」などの実践型語学科目を配置する。

2. 教育の実施体制

- (1) 経済学部の教育は、学部教育委員会が企画、立案、点検、および改善を行なう。
- (2) 各授業科目の教育については、定められた人事方針のもと高度な専門性と教育力を有する教員を配置し、実施する。
- (3) 上記の教育課程の方針を徹底するため各学科に主任と教育委員を配置する。

3. 教育・指導の方法

- (1) 教育方法として、講義形式による授業と演習方式による授業とを組み合わせ、多様でバランスのとれた教育課程を実施する。
- (2) 演習では、少人数による知識や読解力の養成とともに、意見表明能力や問題発見・解決能力を養う授業を実施する。

4. 成績の評価

- (1) 授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法・基準はシラバスなどによって学生に周知する。
- (2) 教員は試験問題を保存・公開し、学生との面談の機会を設けて説明責任を果たす。

- 5. 以上のように編成された教育課程を修得することにより、経済学部ではすべての学生が学士力を身につけることになる（別表参照）。

(出典 佐賀大学 教育方針ウェブページ)

参照資料 5-1-①-ア：各学部教育課程編成・実施の方針 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html>)
 参照資料 5-1-①-イ：全学教育機構教育課程編成・実施の方針 (http://www.oge.saga-u.ac.jp/students_01a.html)
 参照資料 5-1-①-ウ：各教育課程における学位授与の方針 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html>)

【分析結果とその根拠理由】

学生が卒業までに修得する知識・技能・能力等を体系的に示した「佐賀大学 学士力」、並びに各学部・学科（課程）の教育目的に照らして定めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、各学科（課程）の「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められている。

観点 5-1-②： 教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。

【観点に係る状況】

本学の学士課程は、それぞれの教育課程の授与する学位名（参照資料 5-1-②-ア）において、卒業生が身に付けるべき体系的学修成果の達成を学位授与の方針として定め、その達成に導くための教育課程編成・実施の方針（参照資料 5-1-②-イ）に基づいて体系的・具体的に教育課程を編成している。学士課程においては、それぞれの専門分野に関する専門教育と、専門教育によって培われる知識・技術・技能を社会で活用するための汎用的な知識・技術・技能に関する教養教育とを融合して編成しており、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針とのクロス表を用いて授業科目の構成を検証し、体系的な教育課程の編成を担保している（資料 5-1-②-A）。

ポートフォリオ学習支援統合システムのラーニング・ポートフォリオに掲載した「佐賀大学学士力の各項目と授業科目との対応表」により、学位授与の方針に示す学修成果を達成するための体系的履修を示すとともに（資料 5-1-②-B）、カリキュラムマップや科目分類に基づく標準履修モデルを作成し、各教育課程の体系的な学習プロセスを履修の手引きなどに明示している（資料 5-1-②-C~D、参照資料 5-1-②-ウ）。また、教養教育

においても、佐賀大学学士力と教養教育課程の関係表により学修成果の観点からの体系的履修を示している(資料 5-1-②-E)。さらに、全学的なコースナンバリングによる教育課程の体系的・順次性の強化に向けて、平成 28 年度から全学部においてコースナンバーを導入することを決定しており(別添資料 5-1-②-1)、教養教育科目では、平成 27 年度からコースナンバーを導入している(別添資料 5-1-②-2、参照資料 5-1-②-1)。各教育課程によって区分は異なるが、専門教育は 4 年一貫教育(医学部医学科は 6 年一貫教育)を原則として、「専門基礎科目」「専門科目」等によって編成し、概ね、1～2 年次には講義・演習・実験・実習を通じて専門分野に関する基本的知識及び分析方法・技術等を総合する能力を養う専門基礎科目を、2～3 年次には専門的な講義、演習、実験等を、そして 4 年次にはそれらに加えて専門に関する研究に主体的に取り組む卒業研究や 4 年次演習を専門科目として配置している。このように編成・配置した授業科目を通じて、各教育課程の教育の理念・目的に即して専門性を高め、学士課程の学位にふさわしい専門教育の内容と水準を担保している(資料 5-1-②-D【再掲】)。また教養教育は、「大学入門科目」、「共通基礎科目」、「基本教養科目」、「インターフェース科目」の科目区分をもって編成し(資料 5-1-②-E【再掲】)、大学入門科目は 1 年次に、外国語科目、健康・スポーツ科目及び情報リテラシー科目からなる共通基礎科目は 1～2 年次に、自然科学と技術、文化、現代社会の各分野をもって構成する基本教養科目は 1～2 年次に、インターフェース科目は 2～4 年次に配置して、学生が教養教育分野の知識・技術・技能を専門分野の学修とともに順次的・体系的に修得できるようにしている。特に、インターフェース科目は、専門分野に関する学修と実社会とを接続し個人と社会との持続的発展を支える能力の育成を目的とし、社会の抱える課題に関する履修プログラムを設けて、順次性を持たせた授業科目を体系的に履修できるようにしている(参照資料 5-1-②-1)。

資料 5-1-②-A : 学位授与の方針—教育課程編成・実施の方針クロス表
(理工学部機械システム工学科例示)

学位授与の方針		標準履修年次	教育課程編成・実施の方針				標準履修年次
			(1) 本学科が掲げる7つの学習・教育目標に従って学年の進行に伴い基礎から応用へ段階的に学び進めるため、「教養教育科目」と「専門教育科目」を順次的・体系的に配置した教育課程を編成する。	(2) 教養教育については、以下の科目を配置する。自然科学・技術・文化・現代社会・生活に関する授業(基本教養科目、健康・スポーツ科目)、言語・情報・科学リテラシーに関する授業(外国語科目、情報リテラシー科目)を、必修および選択科目として幅広く履修できるように配置する。また、様々な課題を探索し解決の道を探るための授業科目として、当該学科教員担当の「大学入門科目Ⅰ」「創造工学入門(大学入門科目Ⅱ)」を大学入門科目として開講する。さらに、現代社会が抱える諸問題に対して課題を発見し、取組む姿勢を養成するとともに、社会に対応するための知識・技術・技能を修得する「インターフェース科目」を配置し、体系的学習を通じて、特長にわたり個人と社会の持続的発展を支える力を培う。	(3) 技術者として必要な知識・技術を幅広く身につけられるよう、「専門教育科目」として基礎科目から応用科目までを体系的に配置する。また演習、実習、実験科目も多数配置することで、実学を重視した専門教育体制を編成する。「専門教育科目」は「専門基礎科目」、「専門科目」および「専門周辺科目」から構成する。	(4) 1年次の必修科目である「専門基礎科目」として、数学・力学の基礎を中心とした科目群を開講し、専門科目を学ぶ上での礎となる内容を修得させる。いくつかの専門基礎科目については、演習科目との一体科目とすることで効果的な学習効果も上げられるように配課し、専門科目への発展的な学習に繋げる。	
1. 基礎的な知識と技能	(1) 人間社会と自然環境の調和を目指し、グローバルな視点から多面的に物事を考察することができる。	1	大学入門科目・基本教養				1
		2	基本教養				2
		3					3
		4					4
		1	基本教養・健康スポーツ				1
		2	基本教養				2
		3			技術者倫理		3
	(2) 生活者としての良識を備え、技術者として現代社会に対する責任を認識できる。	4					4
		1					1
		2					2
		3					3
		4					4
		1		専門基礎科目			1
		2					2
	(3) 機械工学学習に不可欠な基礎数学と力学の応用力を身につけている。	3					3
		4					4
		1	情報リテラシー			専門科目(必修・選択)	1
		2				専門科目(必修・選択)	2
		3				専門科目(必修・選択)	3
		4				専門科目(選択)	4
		1				図学製図	1
	(4) 機械工学の基礎およびその応用力を身につけている。	2				機械工作実習Ⅰ、Ⅱ、機械要素設計製図Ⅰ、Ⅱ	2
		3				機械工学設計製図	3
		4					4
		1					1
		2					2
		3				機械工学実験Ⅰ、Ⅱ	3
		4					4
(5) 工作実習、設計、製図を通してものづくり(作りmake、造りdesign、創りcreate)の素養を身につけている。	1					1	
	2					2	
	3					3	
	4					4	
	1					1	
	2					2	
	3					3	
(6) 実験等を計画・遂行し、結果を工学的に考察することに関し、課題の発見や問題解決ができる。	4					4	
	1	大学入門科目・外国語	専門基礎科目			1	
	2	外国語				2	
	3				科学技術英語、機械工学実験Ⅰ、Ⅱ、創造工学演習	3	
	4					4	
	1				卒業研究	1	
	2					2	
(7) プレゼンテーションをはじめとする国際的な技術コミュニケーション能力を身につけている。	3					3	
	4					4	
	1	大学入門科目			専門科目(必修・選択)	1	
	2				専門科目(必修・選択)	2	
	3				専門科目(必修・選択)	3	
	4				専門科目(必修・選択)	4	
	1					1	
2. 課題発見・解決能力	2				機械工作実習Ⅰ、Ⅱ	2	
	3				機械工学実験Ⅰ、Ⅱ	3	
	4					4	
	1					1	
	2					2	
	3					3	
	4					4	
(3) 卒業研究を通じた学習・研究活動により、課題・問題点の抽出、解決方法の提示とその実践を自ら行う能力を修得しているとともに、プレゼンテーションやディスカッションの技術を身につけている。	1					1	
	2					2	
	3					3	
	4					4	
	1					1	
	2					2	
	3					3	
3. 個人と社会の持続的発展を支える力	4				卒業研究	4	
	1					1	
	2	インターフェース科目			専門周辺科目	2	
	3	インターフェース科目			専門周辺科目	3	
	4					4	
	1					1	
	2					2	
(1) 現代社会を取り巻く諸問題について、文化・伝統・宗教などの多様な価値観を踏まえ、共生に向けた多面的な考察をすることができる。	3					3	
	4					4	
	1					1	
	2					2	
	3					3	
	4					4	
	1					1	
(2) 幅広い視点から種々の問題に関心をもち、その解決に取り組むことができるとともに、社会における自らの役割について考察し、自己研鑽を続けることができる。	2					2	
	3					3	
	4					4	
	1					1	
	2					2	
	3					3	
	4					4	
(3) 技術者としての高い責任感と倫理観を有し、強いリーダーシップを発揮して社会の持続的発展に積極的に貢献することができるとともに、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。	1					1	
	2					2	
	3					3	
	4					4	
	1					1	
	2					2	
	3					3	

(出典：平成27年度 教育委員会 議事資料)

資料 5-1-②-B: 学士力一授業科目対応表 (例示: 理工学部機械システム工学科)

学士力大項目	学士力小項目	科目区分名	科目名称
1. 基本的な知識と技能	(1.1) 文化と自然	基本教養	自然科学と技術の分野
			文化の分野
			現代社会の分野
	(1.2) 現代社会と生活	共通基礎	健康・スポーツ
			文化の分野
		現代社会の分野	
	(1.3) 言語・情報・科学リテラシー	共通基礎	外国語科目
			情報リテラシー科目
		基本教養	自然科学と技術の分野
		大学入門	大学入門科目Ⅱ
		専門基礎	専門基礎科目
	専門必修	専門必修科目 (卒業研究を除く)	
	(1.4) 専門分野の基礎的な知識と技法	専門基礎	専門基礎科目
		専門必修	専門必修科目 (卒業研究を除く)
専門選択		専門選択科目	
2. 課題発見・解決能力	(2.1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目	大学入門科目
		インターフェース	インターフェース科目
		専門必修	専門必修科目 (卒業研究を除く)
		専門周辺	専門周辺区分Ⅰ・科学
			専門周辺区分Ⅰ・技術
	専門周辺区分Ⅱ		
	(2.2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	専門必修	専門必修科目 (卒業研究を除く)
		専門選択	専門選択科目
	(2.3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門	大学入門科目
		インターフェース	インターフェース科目
		専門必修	専門必修科目 (卒業研究を除く) (卒業研究)
3. 個人と社会の持続的発展を支える力	(3.1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース	インターフェース科目
		専門必修	(卒業研究)
	(3.2) 持続的な学習力と社会への参画力	インターフェース	インターフェース科目
		専門必修	(卒業研究)
	(3.3) 高い倫理観と社会的責任感	インターフェース	インターフェース科目
		専門必修	(技術者倫理)

(出典: ポートフォリオ学習支援統合システム ラーニング・ポートフォリオ)

資料 5-1-②-C : 学位授与の方針に基づいたカリキュラムマップ (例示 : 農学部応用生物科学科)

表 応用生物科学科における教育目標を達成するための授業科目の流れ (カリキュラムマップ)

教育目標	授業科目名								
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
1	(1)	基本教養科目							
	(2)	基本教養科目							
	(3)	基本教養科目					生物情報処理演習		
	(4)	作物生産学 生物学 化学	動物資源開発学 生物化学	土壌学 フィールド科学 基礎実習I	食料流通経済学				
2	(1)	大学入門科目					生物情報処理演習		
	(2)			生物学実験 応用生物学実験 応用化学実験			生物情報処理演習	卒業研究	
	(3)	大学入門科目	生物学実験	応用生物学実験 応用化学実験			生物情報処理演習	卒業研究	
	(4)								
3	(1)								
	(2)								
	(3)	農学基礎科目						卒業研究	
	(4)								
標準取得 単位数	20~	21~	20~	20~	19~	15~	4~	4~	

(出典 : 農学部 履修の手引き (平成 26 年度))

資料5-1-②-D: 標準履修モデル (例示: 農学部応用生物科学)

応用生物科学科 標準履修モデル						
	専門基礎科目 (化学および 生物必修)	農学基礎科目 (3科目 選択必修)	専門科目 (必修)	専門科目 (選択)	教養教育科目	履修登録 単位数
4年後期			卒業研究			4単位～ 6単位 (卒業研究を 1/2とする)
4年前期			卒業研究	植物栄養学 飼料資源学 (or動物生体生理学)		4単位～ 8単位 (卒業研究を 1/2とする)
3年後期			生物科学英語 生物情報処理演習	食用作物学 農業政策論 経営資源管理学 熱帯有用植物学 分野実験Ⅱ	インターフェース科目	15単位～ 20単位
3年前期			科学英語	植物分子遺伝学 植物生態生理学 動物遺伝育種学 動物生体生理学 (or飼料資源学) 動物生産管理学 観賞園芸学 分野実験Ⅰ	基本教養科目(1科目) インターフェース科目	19単位～ 22単位
2年後期		食料流通経済学	果樹園芸学 応用生物学実験 蔬菜園芸学	植物病原学 昆虫学 動物繁殖生理学 フィールド科学基礎実習Ⅱ	基本教養科目(1科目) 英語 英語以外の外国語 インターフェース科目	20単位～ 22単位
2年前期		土壌学	植物病理学Ⅰ 生物学実験 応用化学実験 植物育種学 フィールド科学基礎実習Ⅰ	熱帯作物改良学 線虫学 動物行動生態学 システム生態学	基本教養科目(1科目) 英語 英語以外の外国語 インターフェース科目	20単位～ 22単位
1年後期		動物資源開発学 生物化学	応用動物昆虫学 植物生理学 生物統計学 熱帯農業論 遺伝学		基本教養科目(2科目) 英語 英語以外の外国語 スポーツ実習 健康・スポーツ講義	21単位～ 23単位
1年前期	基礎数学 物理学 化学 生物学	作物生産学			大学入門科目 基本教養科目(1科目) 情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ 英語 英語以外の外国語 スポーツ実習	20単位～ 22単位
卒業要件単位	4(2科目)	6(3科目)	36(17科目)	43(23科目)	37	126

(出典: 農学部「履修の手引き」(平成26年度))

資料 5-1-②-E : 佐賀大学学士力と教養教育科目の関係

佐賀大学学士力と教養教育科目の関係

佐賀大学学士力		教養教育科目																	
学士力大項目	学士力小項目	大学入門科目		共通基礎科目						基本教養科目									
		大学入門科目Ⅰ	大学入門科目Ⅱ	外国語科目		健康・スポーツ科目		情報リテラシー科目		自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野							
		英語	ドイツ語	フランス語	中国語	朝鮮語	日本語	講義	実習				講義	演習	健康スポーツ科学	スポーツ実習Ⅰ	スポーツ実習Ⅱ	情報基礎概論	情報基礎演習Ⅰ
1. 基礎的な知識と技能	(1) 文化と自然																	○	○
	(2) 現代社会と生活								○	○	○								○
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	○	○	○							○	○	○	○					
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技法	各学部のカリキュラムで対応																	
2. 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	○	○																○
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	各学部のカリキュラムで対応																	
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	○	○																
3. 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力																		○
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力																		○
	(3) 高い倫理観と社会的責任感																		○

(出典：佐賀大学の教養教育-学生が「自ら学ぶ」教育を目指して-5頁(平成25年9月全学教育機構発行))

別添資料 5-1-②-1：平成 26 年第 9 回教務専門委員会議事要旨
 別添資料 5-1-②-2：全学教育機構教育カリキュラムコースナンバリング要項

参照資料 5-1-②-ア：佐賀大学学位規則 別表（第 3 条関係）

(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/345.html>)

参照資料 5-1-②-イ：各学部教育課程編成・実施の方針 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhausin.html>)

参照資料 5-1-②-ウ：カリキュラムマップ、標準履修モデル

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>)

各学部の履修の手引き（平成 27 年度）をクリック

参照資料 5-1-②-エ：オンラインシラバスにおけるコースナンバリングの記載（2015 年度全学教育機構開設科目）

(http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on)

参照資料 5-1-②-オ：インターフェース科目の概要

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>)

「教養教育」の履修の手引（平成 27 年度入学）をクリックし、p17-18 を参照

【分析結果とその根拠理由】

「佐賀大学学士力」及び各学部・学科（課程）の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に即して定めた「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各教育課程の教育の目的や授与される学位に照らして卒業時に身に付けているべき学習成果の観点から専門教育と教養教育を融合した教育課程を体系的に編成している。専門教育では段階的に専門性と社会的通用性を高めるように授業科目を配置し、その学修と共に順次・体系的に教養としての知識・技術・技能を修得できるように教養教育では授業科目を配置している。これらのことから、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育課程が体系的に編成されており、教育課程の内容・水準が、教育の目的や授与される学位に照らして適切なものになっている。

観点 5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

学生の多様なニーズに配慮し、他学部の授業科目を学部が定める上限に応じて卒業要件単位に換算するとともに（別添資料 5-1-③-1～2）、他大学との単位互換協定による単位認定や、県内の大学・短大（6 大学）が加盟する「大学コンソーシアム佐賀」による単位互換を実施している（参照資料 5-1-③-ア）。また、入学後の学生のニーズに応えるため、学則に基づき、転入学・転学部・転学科（転課程）の制度を各学部が実施するとともに、経済学部及び医学部を除く 3 学部では、3 年次への編入学の制度を設けている（資料 5-1-③-A、参照資料 5-1-③-イ～エ）。

学術の発展動向への配慮は、卒業研究や 4 年次の演習などの授業において担当教員の研究成果を反映させる（資料 5-1-③-B）とともに、以下に示す文部科学省事業等による教育カリキュラムに反映させている。また、社会的及び職業的自立などの社会からの要請に配慮し、「佐賀大学キャリアガイダンス実施方針」（別添資料 5-1-③-3）に従い、学部・学科等の教育の目的に応じて、インターンシップを含むキャリア教育関連の授業科目を開設するとともに、全学部の学生を対象とした「キャリアデザイン」や社会との接続を意識した「インターフェース科目」を必修科目として開設（参照資料 5-1-③-オ）している。また、平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」（文部科学省）に採択された「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」（参照資料 5-1-③-カ）により、学生参画型の地域創成や環境保全プログラムなどにおいて全学教育科目の「インターフェース科目」

を開設し、地域社会からの要請等に配慮している。

さらに、文部科学省「国公立大学を通じた大学教育改革の支援事業」などの支援により、学生のニーズや社会からの要請に応える多様な教育プログラムを提供している（資料5-1-③-C）。

その他、相応の学力があると判断される学部学生については、大学院修士（博士前期）課程の科目等履修生と認め（科目等履修生規程 第3条2(2)）、学士課程教育の一層の充実を図れるよう配慮している（参照資料5-1-③-キ）。

資料5-1-③-A： 編入学・転学部・転学科(転課程)の受入状況（平成22～26年度）

学 部	編入学					転学部					転学科(転課程)				
	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26
文化教育	15	17	17	19	20	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
経済	—	—	—	—	—	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
医	10	8	4	7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理工	9	8	25	19	22	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0
農	9	8	8	7	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

注) 上記期間の転入学受入は0

(出典：事務局資料)

資料5-1-③-B： 研究活動及び研究業績等を授業の内容や教材に反映させた例

学部	授業科目	研究活動及び研究業績等
文化教育学部	基礎西洋画	授業用教科書として、本授業講師である小木曾誠を含めた、佐賀大学文化教育学部美術工芸課程の教員らの共同執筆、佐賀大学文化教育学部研究叢書『美のからくり-美術・工芸の舞台裏』（昭和堂、2011年）が活用されている。
経済学部	管理会計論	日本会計研究学会スタディ・グループでの共同研究『情報ニーズの拡張と管理会計の変容』における管理会計担当者への企業ヒアリング結果を使用した。
医学部	災害看護論	実践的な災害看護の教育方法の開発研究[START式トリアージの災害看護教育への導入)を授業に反映した。
理工学部	ソフトウェア工学	本研究室で開発したソフトウェア設計支援ツールPerseusを学生に使用させてモジュール設計演習およびアルゴリズム作成演習を行った。
理工学部	水工水理学	佐賀平野の流域治水に関する研究成果の概要を講義で解説した。
農学部	応用動物昆虫学	自らの研究内容を紹介し、研究の面白さを紹介。さらに、昆虫学の基礎知識との関連を強調することによって必要な知識を習得させた。

(出典：平成22～26年度評価基礎情報データ)

資料 5-1-③-C : 文部科学省に採択されたプログラム

事業名	プログラム名	継続プログラム名等
平成 24 年度大学間連携 共同教育推進事業	幼保専門職業人養成プログラム	
平成 22 年度就業力 G P 平成 24 年度産業界ニ ーズに対応した教育改 善・充実体制整備事業	環境キャリア教育（佐賀大学版環境教育プロ グラム） (http://net.pd.saga-u.ac.jp/kankyo-ed/)	全学教育機構開設科目 による全学共通の教育 プログラム「環境キャ リア教育プログラム」
平成 20 年度教育 G P	実践臨床医養成への問題基盤型学習の実質化」による P B L ・ T B L 融合型授業及び臨床技能訓練実習 (http://www.smssme.med.saga-u.ac.jp/)	医学部で開設する「機 能・系統別 P B L 科目」
平成 20 年度教育 G P	創造的人材育成～誰でもクリエイター (http://net.pd.saga-u.ac.jp/digi-pre/)	全学共通の教育プロ グラム「デジタル表現技 術者養成プログラム」

(出典：事務局資料)

別添資料 5-1-③-1：学内開放科目開設要項
別添資料 5-1-③-2：学内開放科目一覧
別添資料 5-1-③-3：佐賀大学キャリアガイダンス実施方針

参照資料 5-1-③-ア：「大学コンソーシアム佐賀」ウェブサイト (<http://www.saga-cu.jp/index.html>)
参照資料 5-1-③-イ：佐賀大学学則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakusoku/gakusoku.htm>)
参照資料 5-1-③-ウ：各学部等編入学規程
文化教育学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/bunkyo/hennyugaku.htm>)
理工学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/riko/hennyugaku.htm>)
農学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/nogaku/hennyugaku.htm>)
参照資料 5-1-③-エ：佐賀大学理工学部転入学に関する細則
(<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/riko/tennyugaku.htm>)
参照資料 5-1-③-オ：全学教育機構 ウェブサイト (http://www.oge.saga-u.ac.jp/students_03c.html)
参照資料 5-1-③-カ：「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」ウェブサイト
(<http://ccsap.saga-u.ac.jp/project>)
参照資料 5-1-③-キ：佐賀大学科目等履修生規程 第 3 条 2-(2)
(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/346.html>)

【分析結果とその根拠理由】

他学部授業科目の卒業要件単位への換算やキャリア関連科目などを開設し、学生の多様なニーズや社会からの要請に配慮している。さらに、教員の研究成果の授業への反映、社会との接続を意識したインターフェース科目の開設、文部科学省が支援する事業プログラムへの取組など、学術の発展動向や社会からの要請に添えている。

これらのことから、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮がなされている。

観点 5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

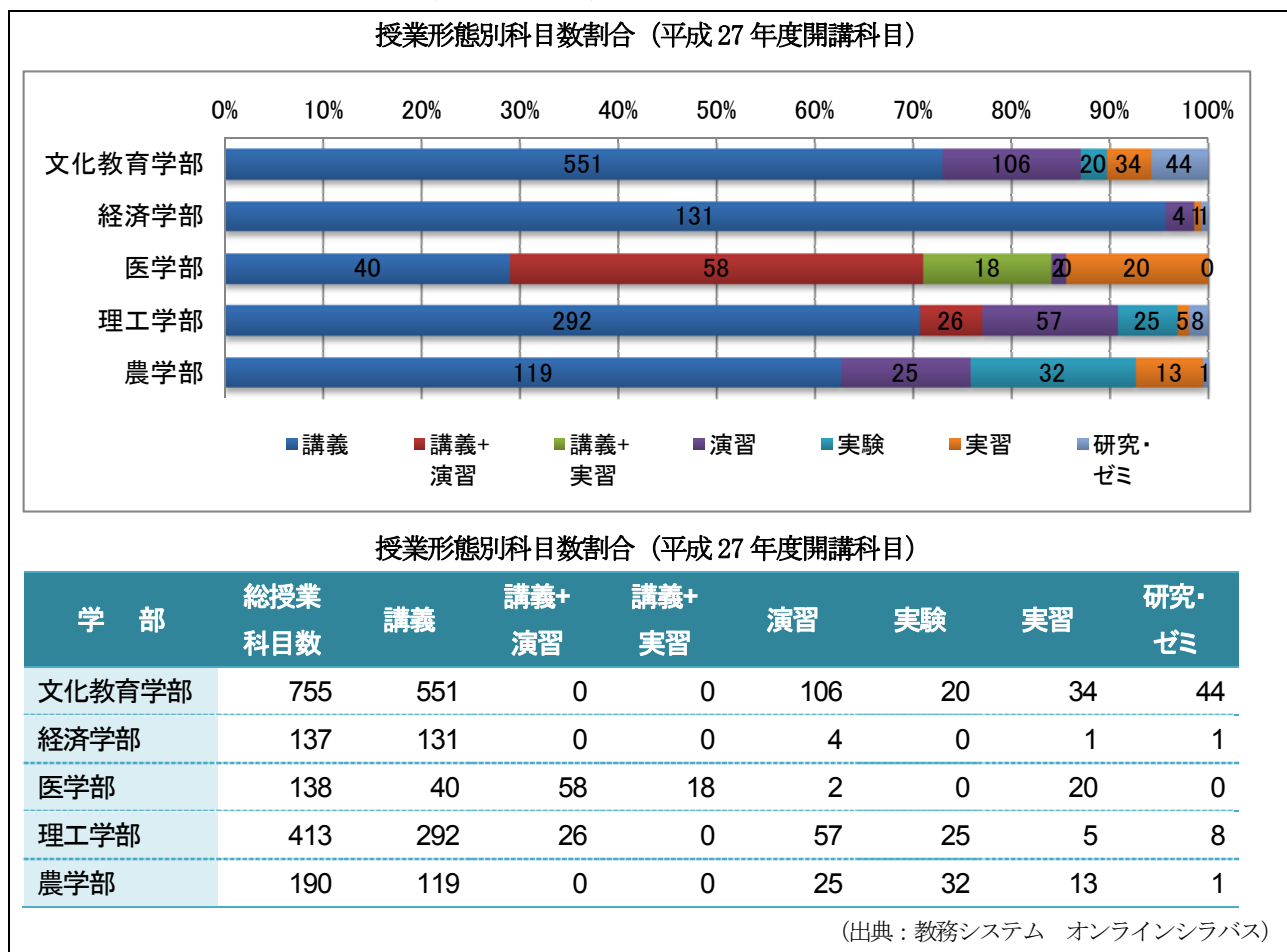
【観点に係る状況】

各学科（課程）は、教養教育及び専門教育において、それぞれの教育目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態を適切に組み合わせている（資料 5-2-①-A）。専門教育の開講科目数は、講義科目が 62～95%（医学部を除く）と最も多いが、開講コマ数では、講義以外の割合が 33～60%（医学部を除く）となっており、演習や実験・実習等の実践的な授業科目と講義科目が組合わされてバランス良く開講されている。なお、医学部においては多くの講義を演習や実習と組み合わせている。

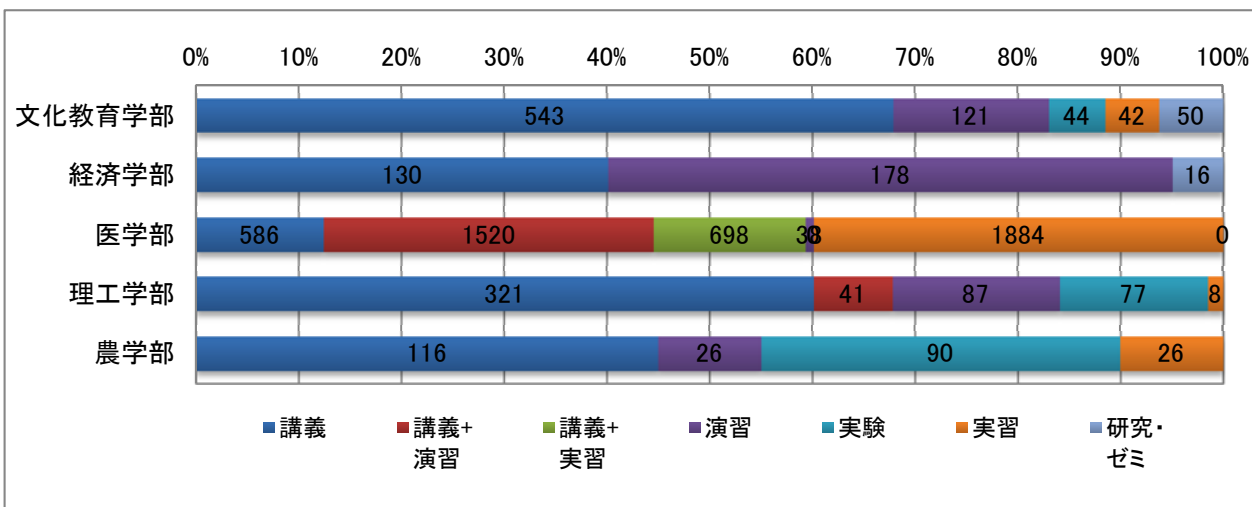
学習指導法については、教育の目的・内容に応じて、インターンシップ、ディスカッション、グループワーク、フィールド演習・実習、問題基盤型学習（PBL）、チーム基盤型学習（TBL）など学習指導法の工夫を実施している（資料 5-2-①-B）。

さらに、卒業研究や 4 年次の演習における少人数指導や留学支援英語、日本語（外国人留学生対象）、国際交流実習などの少人数授業（資料 5-2-①-C）、インターネットによるストリーミング配信授業や同期型遠隔授業などの ICT 活用型授業科目（別添資料 5-2-①-1）、ティーチング・アシスタント（TA）を活用した実験・演習やグループワークの支援（別添資料 5-2-①-2）など、教育内容に応じて効果的な学習がなされるよう工夫している。

資料 5-2-①-A： 講義、演習、実験、実習等の授業形態別の開講状況（平成 27 年度）



授業形態別開講コマ数割合（平成 27 年度開講科目） *注 卒業研究などの時間外開講および集中講義を除く



授業形態別開講コマ数（平成 27 年度開講科目）

学部	総授業コマ数	講義	講義+演習	講義+実習	演習	実験	実習	研究・ゼミ
文化教育学部	800	543	0	0	121	44	42	50
経済学部	324	130	0	0	178	0	0	16
医学部	4,726	586	1,520	698	38	0	1,884	0
理工学部	534	321	41	0	87	77	8	0
農学部	258	116	0	0	26	90	26	0

(出典：平成 27 年度シラバス)

資料 5-2-①-B： 学習指導法の工夫例

学部等	学習指導法の工夫例
全学教育機構	【アクティブ・ラーニング】 インターフェース科目（全学部 4 科目 8 単位必修）では、インターンシップやディスカッション、グループワークなどを採用
文化教育学部	【フィールド演習】 教育実践フィールド演習 I・II・III（3 科目 4 単位）を 1～3 年次に配当して教育実習（科目 5 単位）と併せて高度な実践力を涵養
経済学部	【講義と演習の組合せ】 専門分野の学修を開始するための必修の講義と演習による入門科目（講義 3 科目 6 単位）と入門ゼミ（演習 1 科目 2 単位）の開設
医学部医学科	【問題基盤型学習・チーム基盤型学習】 問題基盤型学習（PBL）及びチーム基盤型学習（TBL）からなる機能・系統別 PBL・TBL 科目（Phase III の 3・4 年次に 13 科目 52 単位）の開設
理工学部	【講義と演習の組合せ】 講義と演習を組み合わせた授業科目（26 科目 41 コマ）を開設
農学部	【実習】 附属アグリ創生教育研究センターを活用したフィールド科学基礎実習等の 7 実習科目の開設

(出典：事務局資料)

資料 5-2-①-C : 少人数授業の例 (平成 26 年度)

授業科目	学部等	対象学年	履修者数	単位数
Intercultural English: Awakenings	全学	1	30	1
Integrated Speaking: Awakenings	全学	1	20	1
Intercultural English: Bridging	全学	1	30	1
Integrated Writing: Awakenings	全学	1	20	1
国際交流実習	全学	1	28	2
日本事情 (文化)	全学	1	25	2
日本事情 (現代社会)	全学	1	16	2
日本事情研修 B	短期留学プログラム受講者	1	32	2
文化と化学	短期留学プログラム受講者	1	7	2
日本に関する WEB ページ制作応用	短期留学プログラム受講者	1	11	2
概説・農学と環境学	短期留学プログラム受講者	1	21	2
言語学における野外手法 II	短期留学プログラム受講者	1	11	2
自主研究 (春学期)	短期留学プログラム受講者	1	14	2
日本事情研修 D	短期留学プログラム受講者	1	28	2
日本事情研修 A	短期留学プログラム受講者	1	20	2
自主研究 (秋学期)	短期留学プログラム受講者	1	7	2
日本事情研修 D	短期留学プログラム受講者	1	28	2

(出典：事務局資料)

別添資料 5-2-①-1 : ICT活用型授業科目に関する資料

別添資料 5-2-①-2 : ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書【例示】

【分析結果とその根拠理由】

教養教育と専門教育の各授業科目の目的に照らして、講義、演習、実験、実習や少人数授業、ICTを活用したインターネット授業、フィールド型授業、ディスカッションやグループワークなどの学生参画型授業、PBL・TBLなどが採用されており、それらがバランスよく組み合わせられて実施されている。これらのことから、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されている。

観点 5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。**【観点に係る状況】**

1年間の授業期間が定期試験等の期間を含め35週、各授業が15週にわたる期間及び補講日を1週間確保するよう学年暦を定める(参照資料 5-2-②-ア)とともに、休講する場合の手続き及び補講等の実施について定めて(別添資料 5-2-②-1)、実質的な授業時間を確保している。なお、医学部においては、基礎的な学習から応用的な学習内容へと積み上げていく授業科目配置により学習効果を高めるために授業時間制を採用し、他学部と同等以上の授業時間を確保している(参照資料 5-2-②-イ)。

履修登録の上限設定(CAP制度)については、学部・学科(課程)の教育課程に応じて一学期に20~23単位程度とし、十分な学習時間の確保に配慮するとともに、GPAが各学部・学科(課程)の定めた一定基準を超える成績優秀者に対してはCAP制度の制限を適宜緩和している(別添資料 5-2-②-2)。

また、授業時間外の自主的学習を促すために、オンラインシラバスに授業の目的・計画と自主学習を促すための課題等を記載している(資料 5-2-③-B【後掲】)。アクティブ・ラーニングの導入や、毎回ミニテストを行うなど、授業時間外学習時間の向上を図っている科目もある(別添資料 5-2-②-3)。さらに、平成23年度からは、学習支援機能の充実や教育改善の支援を目的とした「ポートフォリオ学習支援統合システム」を全学的に導入し、学生の主体的な学習を促進するための「ラーニング・ポートフォリオ」(別添資料 5-2-②-4)において、学習状況の自己点検評価とチューター(担任)教員による指導・助言等を行っている(別添資料 5-2-②-5)。

授業科目毎に予習・復習に費やした時間については、学生による授業評価(参照資料 5-2-②-ウ)において調査するとともに、ラーニング・ポートフォリオの「学習への取組み」項目において授業以外の学習時間を学生に自己点検・評価させ(資料 5-2-②-A)、それらの状況を把握・分析している。平成23年度以降の入学生の授業時間外1日平均学習時間の分析によれば(資料 5-2-②-B)、1.6時間から2.3時間であり、医学部においては、1日平均3時間以上の自習を行う学生が31%と他学部に比べて多い。また、平成23年度入学生について平均学習時間の推移は、1年次1.7時間、2年次2.0時間、3年次2.4時間、4年次2.9時間と増加しており、年次進捗とともに主体的な学習への取組が増加している(資料 5-2-②-C)。特に、1日3時間以上の自習を行っている学生の割合は、1年次の21%から4年次での44%へと倍増しており、実験・実習や卒業研究・4年次の演習など課題解決型の科目において、主体的な学習がなされていることを反映している。なお、医学部においては、授業形態ごとに復習の実施の程度を5件法で調査・把握しており、「高い」、「やや高い」との回答率がいずれの授業科目においても60~70%となっている(資料 5-2-②-D)。

資料5-2-②-A: ラーニング・ポートフォリオの概要

ラーニング・ポートフォリオとは？

ラーニング・ポートフォリオ
4年間を通じた学習活動の記録

ラーニング・ポートフォリオのメリット

1. 成長を実感
2. やる気を持続
3. 就職活動でも活用

ラーニング・ポートフォリオに記入すること

- 授業で、何をしたいのか
- そのために今、何をやるのか
- どのようにやるのか
- やってみてどうだったか
- 学びや気づき（アドバイス）
- 達成データ（成績資料）保管

※具体的な内容や、入力の方法は、
「ラーニング・ポートフォリオ」
利用の手引を、参照してください。

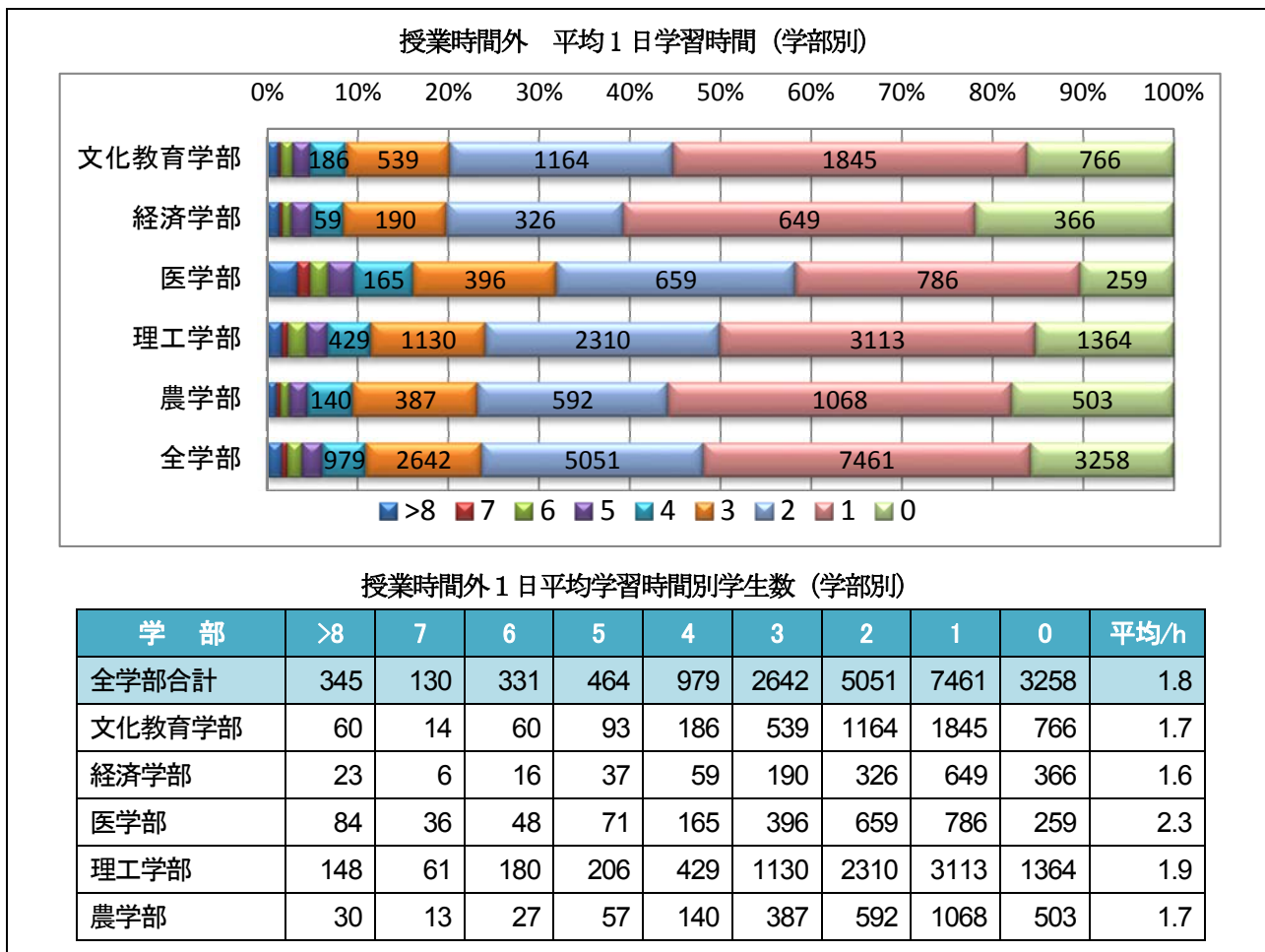
PDCA サイクル

- PLAN** 学習の目標・計画
- DO** 学習活動
- CHECK** 結果の振り返り
- ACT** 目標・計画の改善

*1 定期的に更新する
*2 テACHERとの面談で客観的に振り返る
*3 就職活動のときに、自己分析・参考資料に使える

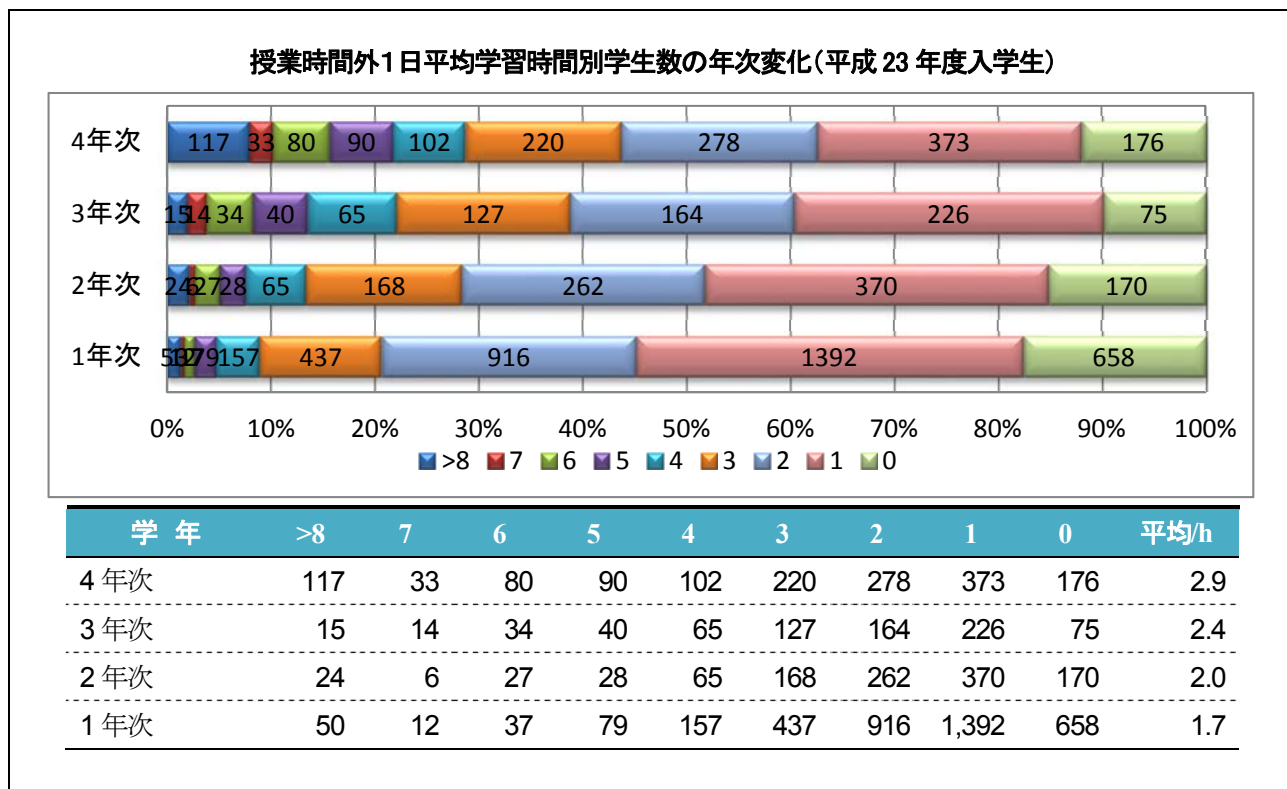
(出典：ラーニング・ポートフォリオ入力支援資料)

資料5-2-②-B: 授業時間外1日平均学習時間分析結果（平成23年度から4年間8学期間の平均）



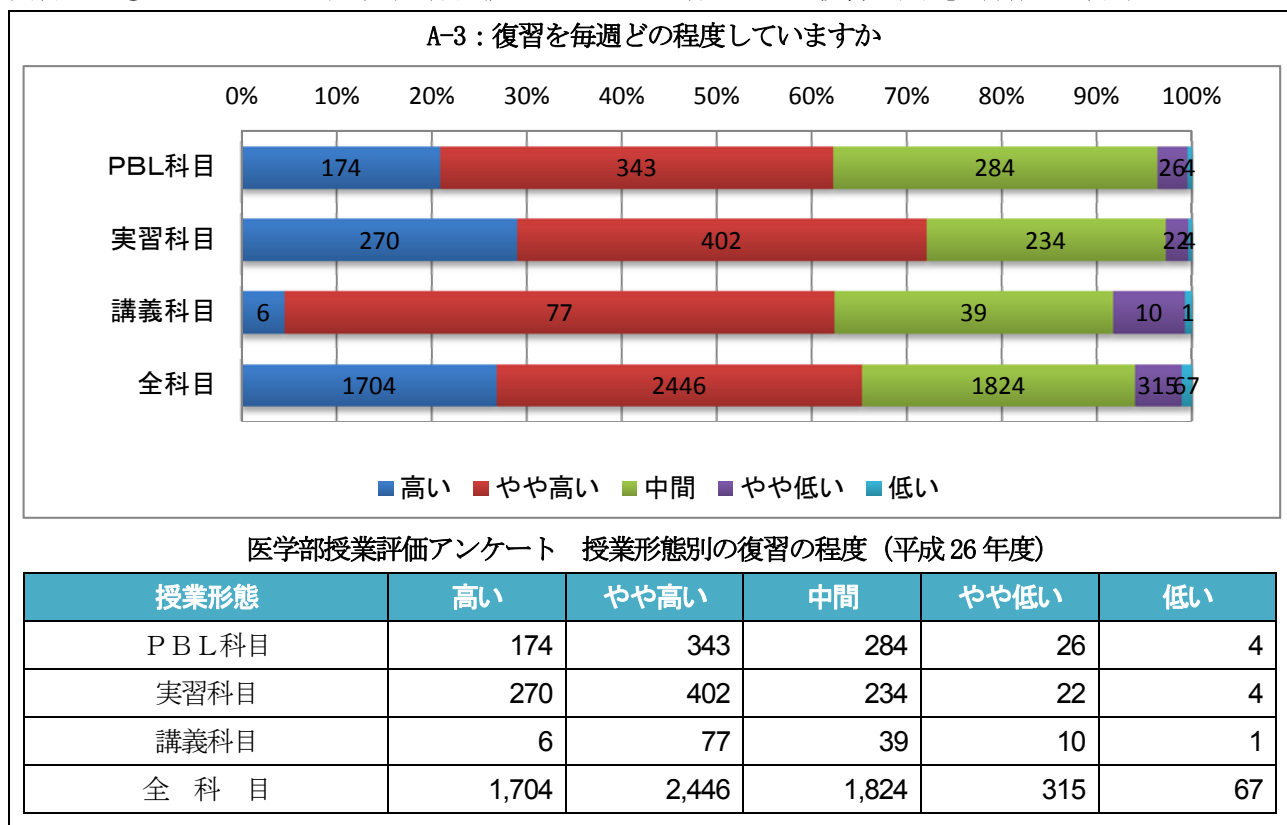
(出典：平成27年度 第2回教育委員会議事資料)

資料 5-2-②-C： 授業時間外 1 日平均学習時間分析結果（平成 23 年度から 4 年間 8 学期間の平均）



(出典：平成 27 年度 第 3 回教育委員会議事資料)

資料 5-2-②-D： 医学部授業評価アンケート「授業形態別の復習の程度」(平成 26 年度)



(出典：医学部授業評価アンケート結果報告書)

別添資料 5-2-②-1：佐賀大学における休講手続等に関する要項
 別添資料 5-2-②-2：各学部の履修上限（CAP）に関する内規
 別添資料 5-2-②-3：アクティブ・ラーニング(シラバス)
 別添資料 5-2-②-4：ラーニング・ポートフォリオ 「学習目標・計画および達成状況と自己評価」画面
 別添資料 5-2-②-5：ラーニング・ポートフォリオ 「学習への取り組み」画面

参照資料 5-2-②-ア：平成 22～27 年度学年暦 学生センター ウェブページ

(http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakunen_reki.html)

参照資料 5-2-②-イ：医学部医学科授業日程表 (<http://www.med.saga-u.ac.jp/viewnews.php?newsid=421>)、

看護学科授業日程表 (<http://www.med.saga-u.ac.jp/viewnews.php?newsid=422>)

参照資料 5-2-②-ウ：「学生による授業評価」の実施に関する報告書 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.html>)

【分析結果とその根拠理由】

1 年間に 35 週の授業期間、1 学期に 15 週の授業期間及び 1 週の補講期間を設定し、学部・学科（課程）の教育課程に応じて履修単位数に上限を設けて十分な学習時間を確保し、シラバスに学習課題を明記することなどにより、授業時間外の自主的学習を促すとともに、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター指導により主体的な学びを促進している。また、ラーニング・ポートフォリオにおいて、学生の授業時間外学習状況を把握・分析している。これらのことから、単位の実質化に配慮がなされている。

観点 5-2-③：適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点到に係る状況】

全学的に統一した様式によるシラバスを、全ての授業科目について作成・公開することを「シラバス作成に関する要項」（資料 5-2-③-A）に定め、インターネット上の「オンラインシラバス」（参照資料 5-2-③-ア）に掲載することにより、学生が活用できるよう整備している。なお、医学部では同等のシラバスを学習要項に「授業科目の学習指針等」（参照資料 5-2-③-イ）として掲載している。シラバスの作成率は、平成 25 年度に 100%を達成し、平成 26 年度も引き続き 100%を維持している。

シラバス（医学部の「授業科目の学習指針等」含む。）は、授業内容、授業方法、評価方法など、授業の全体像を学生に示すことを目的とし、「シラバス作成の手引き」（別添資料 5-2-③-1）に基づき、「講義概要」、「開講意図」、「到達目標」、「履修上の注意」、「授業計画」、「成績評価の方法と基準」、「試験結果の開示」、「参考図書」などを記載している（資料 5-2-③-B）。「到達目標」には当該授業で学生に身に付けて欲しい事柄が測定可能な表現で記載され、「授業計画」の「授業以外の学習」欄に自主的学習を促す授業外学習の指示や課題等を示して、授業科目の履修や準備学習等を進めるための工夫をしている。さらに、「シラバスの点検及び改善に関する要項」、「シラバス点検表」（資料 5-2-③-C～D）に基づき、各学部等は毎年、組織的にシラバスの点検を行い、適切なシラバスの作成に努めている。

学生にシラバス活用を周知するため、「シラバス説明文（学生用）」（参照資料 5-2-③-ウ）を大学ウェブサイトを開示し、授業担当教員は第 1 回目の授業においてシラバスの説明を行っている。また、シラバスに記載された参考文献等の図書は、附属図書館のシラバス掲載参考図書コーナーに開架するとともにオンラインで検索可能となっている。授業評価アンケートによれば、「科目選択におけるシラバスの参考度」について、「全くそうは思わない」及び「そうは思わない」の否定的回答率は約 10%以下、「授業内容はシラバスに沿っている」について、否定的な回答率は 5%以下となっている（資料 5-2-③-E）。また、在校生を対象とした学生対象調査アンケート

においても「シラバスは科目選択の参考になりましたか」という質問への回答は、概ね平均3点（5段階評価）以上となっている（資料5-2-③-F）。さらに、「シラバスを利用してどのような情報を得ようと思いましたか」について、「授業の内容」という回答率が50～62%となっており、シラバスの目的に沿った活用がなされている（資料5-2-③-F）。

資料5-2-③-A： シラバス作成に関する要項

シラバス作成に関する要項

(平成19年3月26日制定)

(作成目的)

第1条 次に掲げる目的を達成するため、佐賀大学（以下「本学」という。）の授業を担当する教員（以下「担当教員」という。）は、シラバスを作成するものとする。

- (1) 授業の教育目的を明確にする。
- (2) 授業を体系的・計画的に展開する。
- (3) 学生に授業計画を周知し、学習計画を立てさせる。
- (4) 学生に成績評価に関する情報を周知する

(記載項目)

第2条 シラバスの記載項目は、大学教育委員会の議を経て、決定する。

(実施)

第3条 シラバスは、本学で開講される全授業科目について、作成し、公開する

- 2 シラバスの記載内容は毎年更新し、指定された期日・方法で提出又は入力する。
- 3 担当教員は、第1回目の授業において、該当科目のシラバスについて説明する。

(雑則)

第4条 この要項に定めるもののほか、シラバス作成に必要な事項は、大学教育委員会において定める。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：大学教育委員会資料)

資料 5-2-③-B : オンラインシラバスの記入例 (平成 27 年度理工学部授業科目 抜粋)

開講年度	2015	開講時期	後期																																										
科目名	化学基礎Ⅳ及び演習																																												
担当教員(所属)	●●●●●●●●																																												
単位数	2																																												
曜日・校時	火4,金4																																												
学士力番号	1.基礎的な知識と技能 (4)専門分野の基礎的な知識と技法																																												
講義形式	演習を含む講義																																												
講義概要	化学反応に関する以下の事項の基礎的な考え方・捉え方・応用方法について、講義と演習を行う。 1. 化学反応と周期表 2. 化学反応速度論 3. 化学平衡 4. 水溶液中の酸-塩基平衡																																												
開講意図	学習教育目標 A-2 基礎化学を体系的に理解し、継続的に活用できる化学技術者としての能力を身につける。																																												
到達目標	1. 化学反応を系統的に分類して理解し、イオン反応・酸-塩基反応・酸化還元反応について、基礎概念を説明でき、応用することができる。 2. 化学反応の分類別に、反応性を周期性などから系統的に説明でき、化学反応の反応性を定性的に予測することができる。 3. 反応速度の基礎事項を理解して応用できるとともに、衝突理論、遷移状態理論を用いて反応機構を説明できる。 4. 反応速度への温度や触媒の影響を反応機構から説明でき、定性的および定量的に予測することができる。 5. 化学平衡の基礎事項を理解し、平衡定数間の換算やルシャトリエの原理にもとづく定性的化学平衡の移動予測ができる。 6. 平衡定数や初期濃度にもとづき、さまざまな場合に応じて、反応の定量的な取扱いができる。 7. pH の概念を説明でき、水溶液中の酸-塩基の解離平衡、緩衝作用、加水分解反応について、定性的および定量的な取扱いができる。 8. 酸-塩基滴定について、酸-塩基の組み合わせに応じて、滴定曲線の定性的および定量的な取扱いができ、適切な指示薬を選択できる。																																												
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>授業以外の学習</th> <th>回</th> <th>内容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、化学反応に関する基礎知識</td> <td>高校で学んだ化学反応の知識を復習する</td> <td>16</td> <td>化学平衡: 15.1 平衡の考え方、15.2 平衡定数の表記法</td> <td>講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水溶液中の反応: 4.1 水溶液の一般的性質、4.2 沈殿反応</td> <td>講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる</td> <td>17</td> <td>前回講義の演習</td> <td>演習課題の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前回講義の演習</td> <td>演習課題の予習</td> <td>18</td> <td>化学平衡: 15.3 平衡定数によって何がわかるか、15.4 化学平衡に影響する因子</td> <td>講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>水溶液中の反応: 4.3 酸塩基反応、16.8 分子構造と酸の強さ、16.11 ルイス酸とルイス塩基</td> <td>講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる</td> <td>19</td> <td>前回講義の演習</td> <td>演習課題の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>前回講義の演習</td> <td>演習課題の予習</td> <td>20</td> <td>酸と塩基: 16.1 ブレンステッドの酸と塩基、16.2 水の酸性・塩基性、16.3 pH-酸性の尺度、16.4 酸と塩基の強さ</td> <td>講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>水溶液中の反応: 4.4 酸化還元反応、19.1 酸化還元反応</td> <td>講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる</td> <td>21</td> <td>前回講義の演習</td> <td>演習課題の予習</td> </tr> </tbody> </table> <p>以下、省略</p>			回	内容	授業以外の学習	回	内容	授業以外の学習	1	ガイダンス、化学反応に関する基礎知識	高校で学んだ化学反応の知識を復習する	16	化学平衡: 15.1 平衡の考え方、15.2 平衡定数の表記法	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	2	水溶液中の反応: 4.1 水溶液の一般的性質、4.2 沈殿反応	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	17	前回講義の演習	演習課題の予習	3	前回講義の演習	演習課題の予習	18	化学平衡: 15.3 平衡定数によって何がわかるか、15.4 化学平衡に影響する因子	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	4	水溶液中の反応: 4.3 酸塩基反応、16.8 分子構造と酸の強さ、16.11 ルイス酸とルイス塩基	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	19	前回講義の演習	演習課題の予習	5	前回講義の演習	演習課題の予習	20	酸と塩基: 16.1 ブレンステッドの酸と塩基、16.2 水の酸性・塩基性、16.3 pH-酸性の尺度、16.4 酸と塩基の強さ	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	6	水溶液中の反応: 4.4 酸化還元反応、19.1 酸化還元反応	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	21	前回講義の演習	演習課題の予習
回	内容	授業以外の学習	回	内容	授業以外の学習																																								
1	ガイダンス、化学反応に関する基礎知識	高校で学んだ化学反応の知識を復習する	16	化学平衡: 15.1 平衡の考え方、15.2 平衡定数の表記法	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる																																								
2	水溶液中の反応: 4.1 水溶液の一般的性質、4.2 沈殿反応	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	17	前回講義の演習	演習課題の予習																																								
3	前回講義の演習	演習課題の予習	18	化学平衡: 15.3 平衡定数によって何がわかるか、15.4 化学平衡に影響する因子	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる																																								
4	水溶液中の反応: 4.3 酸塩基反応、16.8 分子構造と酸の強さ、16.11 ルイス酸とルイス塩基	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	19	前回講義の演習	演習課題の予習																																								
5	前回講義の演習	演習課題の予習	20	酸と塩基: 16.1 ブレンステッドの酸と塩基、16.2 水の酸性・塩基性、16.3 pH-酸性の尺度、16.4 酸と塩基の強さ	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる																																								
6	水溶液中の反応: 4.4 酸化還元反応、19.1 酸化還元反応	講義予定範囲を予習して、A42枚以内にレポートとしてまとめる	21	前回講義の演習	演習課題の予習																																								
成績評価の方法と基準	到達目標の達成度は、中間試験(45%、到達目標1から4)と期末試験(45%、到達目標5から8)および課題対応(10%、到達目標1から8)の合計(100%)により評価する。 総合評価を 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 4/5 以上の出席をしていること。 なお、再試験は、総合成績が 30 点以上 60 点未満の不合格者に対して行う。																																												
開示する試験問題等	中間試験及び定期試験の問題、解答例、配点、答案																																												
開示方法	中間試験及び定期試験の問題、解答例、配点の開覧については、大学の定める成績評価に対する異議申立に関する期間内に担当教員に申し出ること。																																												

教科書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考(巻冊:上下等)		ISBN
	化学 基本の考え方を学ぶ		
	Raymond Chang, Jason Overby (村田訳)	東京化学同人	2010
	(上)および(下)		978-4-8079-0739-7
参考図書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考(巻冊:上下等)		ISBN
	一般化学		
	J.E.Brady, G.E.Humiston 著 ; 若山信行, 一国雅巳, 大島泰郎訳	東京化学同人	1991
	上 ; 下		
オフィスアワー	火曜5校時、そのほか在室時は随時。		

(出典：教務システム オンラインシラバス)

資料 5-2-③-C： シラバスの点検及び改善に関する要項

シラバスの点検及び改善に関する要項	(平成26年2月18日制定)
(趣旨)	
第1 この要項は、佐賀大学（以下「本学」という。）における教育の質保証推進の一環として、シラバスの記述内容について組織的に点検し、改善するために必要な事項を定める。	
(実施)	
第2 シラバスの点検は、年度ごとに、本学で開講される全授業科目について実施する。ただし、シラバスの内容に変更がない場合は、この限りでない。	
2 学部、全学教育機構及び研究科（以下「学部等」という。）は、シラバス点検表及びシラバス点検結果報告書を利用してシラバスの点検を行う。	
3 シラバスの点検及び修正は、原則として開講年度の前年度の3月20日までに実施する。	
(報告)	
第3 学部等は、教育委員会が定める様式に基づき、シラバスの点検結果を教育委員会へ報告する。	
(検証)	
第4 教育委員会は、年度ごとに学部等が提出するシラバスの点検結果を、検証する。	
(改善)	
第5 全学教育機構は、第4の検証結果に基づき、年度ごとにシラバスの改善について、支援を行う。	
(雑則)	
第6 この要項に定めるもののほか、シラバスの点検及び改善に関し、必要な事項は、教育委員会において定める。	
附 則	
1 この要項は、平成26年3月1日から実施する。	
2 医学部及び医学研究科の専門教育科目のシラバスの点検及び改善の取扱いについては、医学及び医学研究科が別に定める。	

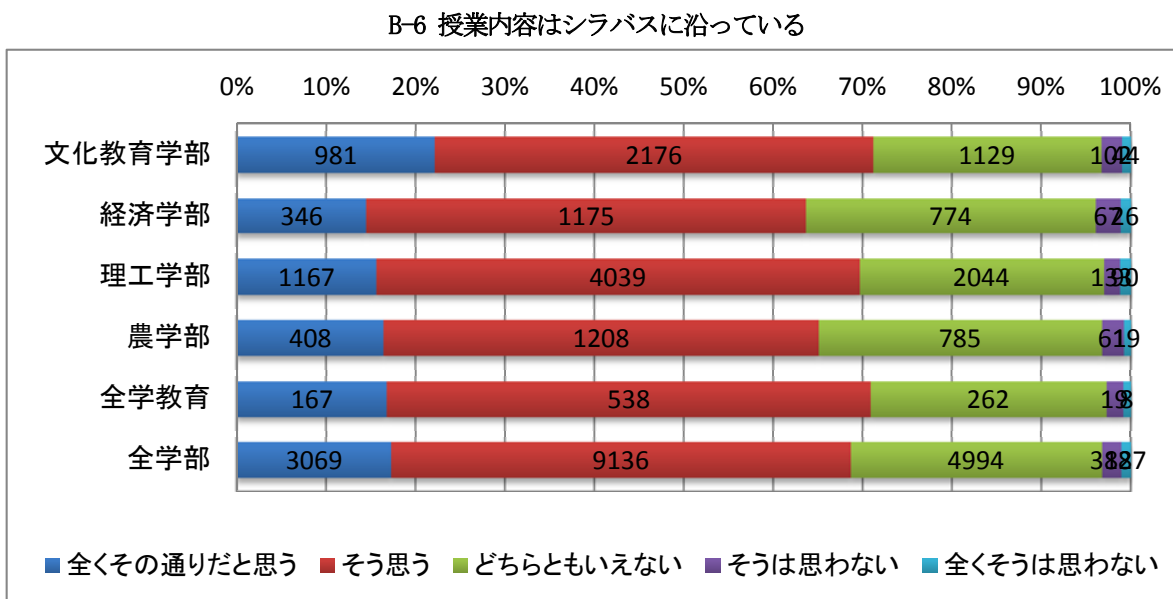
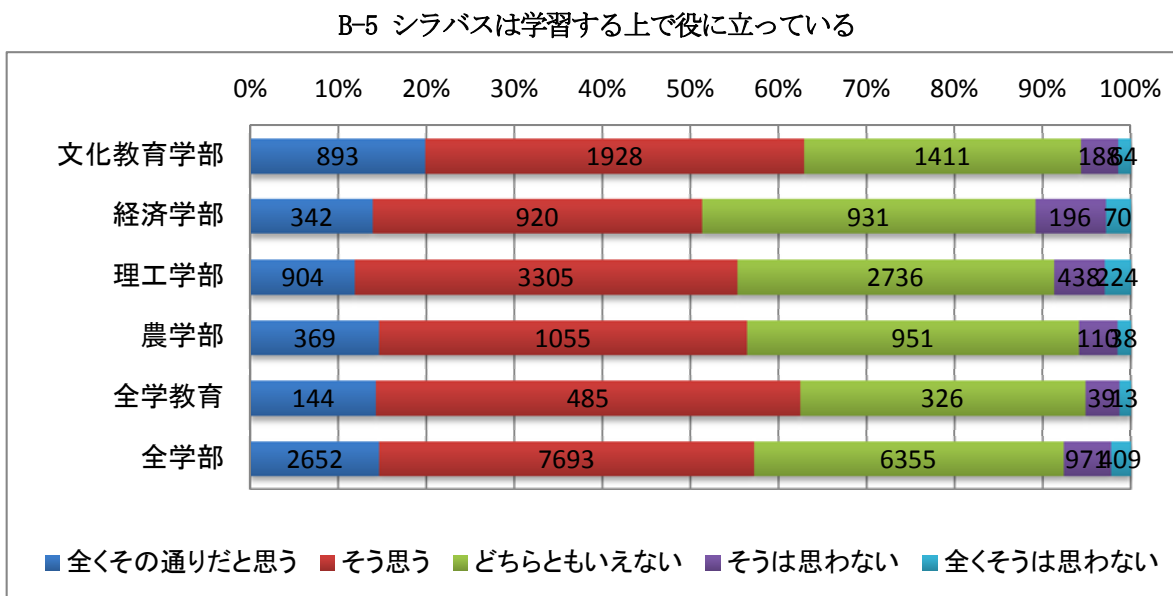
(出典：教育委員会資料)

資料 5-2-③-D: シラバス点検表

シラバス点検表	
科目名: _____	開講時期: _____
担当者: _____	作成者: _____
	点検者: _____
学士力番号	<input type="checkbox"/> 対応する学士力番号すべてを記載している。【 学士課程のみ必須 】
講義形式	<input type="checkbox"/> 授業形態を単位数と授業時数に基づいて記載している。【 必須 】
講義概要	<input type="checkbox"/> 教員の観点から、授業内容、実施方法、全体の流れ、心構えなどが大まかに記述されている。【 必須 】
開講意図	<input type="checkbox"/> 学生の観点から、授業のねらいや目的などが、分かりやすく記述されている。【 必須 】
到達目標	<input type="checkbox"/> 学生にできるようになってほしい事柄が、分かりやすく記述されている。【 必須 】 <input type="checkbox"/> 達成度が測定できるように1つの文章に1つの目標が記載されている。【 必須 】
履修上の注意	<input type="checkbox"/> 事前に履修が必要な科目や能力が記載されている。 <input type="checkbox"/> 利用する機器あるいは利用していない機器などについて記載されている。 <input type="checkbox"/> 履修する際の心構えやルールなどが記載されている。
授業計画	<input type="checkbox"/> 半期 15 回分（通年 30 回分）を回ごとに記載している。複数回まとめて記載する場合は、その内容を具体的に書いている。【 必須 】 <input type="checkbox"/> 授業時間以外の学習について具体的に記載している。「特になし」等、授業時間外の学習が不要と勘違いされるような表現をしていない。【 必須 】
成績評価の方法と基準	<input type="checkbox"/> 成績評価方法、基準、割合が明記されている。【 必須 】 <input type="checkbox"/> 成績評価方法は、すべての到達目標と対応づけられている。【 必須 】 <input type="checkbox"/> 「平常点」を成績に考慮する場合、「平常点」の内容を具体的に記載している。【 必須 】
開示する試験問題等	<input type="checkbox"/> 「開示しない」とせず、履修者へ開示する内容が具体的に記載されている。【 必須 】
開示方法	<input type="checkbox"/> 「開示しない」とせず、履修者への開示方法が具体的に記載されている。【 必須 】
教科書	<input type="checkbox"/> 教科書を利用する場合は、書籍情報が記載されている。教科書を使用しない場合は、その旨を記載している。【 必須 】
リンク	<input type="checkbox"/> ティーチング・ポートフォリオへのリンクが指定されている。 <input type="checkbox"/> 授業に必要なあるいは有益なサイトへのリンクが指定されている。
オフィスアワー	<input type="checkbox"/> オフィスアワーが、具体的に設定されている。ただ単に「随時」とは記載していない。【 必須 】
その他	<input type="checkbox"/> J A B E E に対応した科目の場合、対応する学習教育目標が記載されている。

(出典：教育委員会資料)

資料5-2-③-E： 学習におけるシラバスの参考度（平成26年度）



(出典：授業評価アンケート報告書（平成26年度）)

資料5-2-③-F： 学生対象調査におけるシラバスの参考度・参考内容（平成26年度）

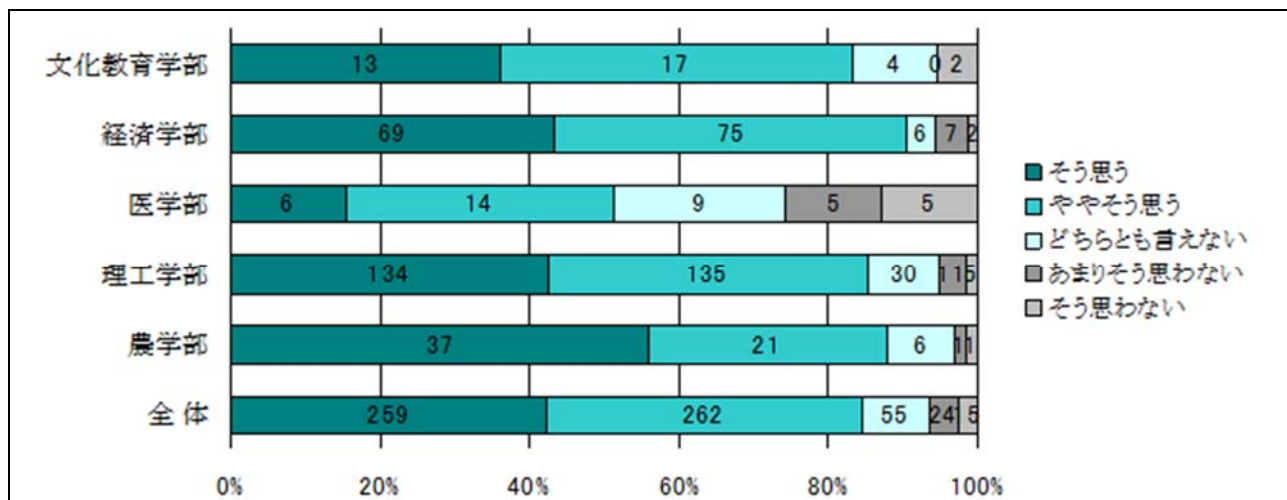


図 5.1.2a 授業選択におけるオンラインシラバスの参考度（在校生）

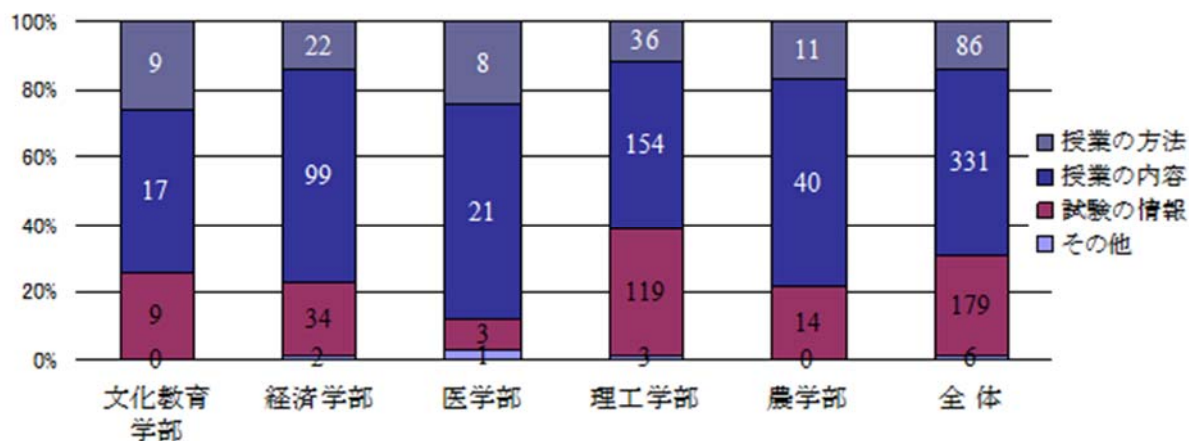


図 5.1.3 シラバスを利用して得ようとした情報（在校生）

（出典：佐賀大学学生対象調査（在校生・卒業・修了予定者対象）報告書（平成26年度））

別添資料5-2-③-1：シラバス作成の手引き

参照資料5-2-③-ア：オンラインシラバス

(http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on)

参照資料5-2-③-イ：医学部学習要項

医学科 (<http://www.med.saga-u.ac.jp/viewnews.php?newsid=421>)

看護学科 (<http://www.med.saga-u.ac.jp/viewnews.php?newsid=422>)

参照資料5-2-③-ウ：シラバス説明文（学生用） (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabusst.html>)

【分析結果とその根拠理由】

講義概要、開講意図、到達目標、授業計画、成績評価の方法と基準、試験結果の開示、参考図書など、授業科目の履修や準備学習等を進めるために必要な項目が記載されたシラバスを全ての授業科目で作成し、オンラインシラバス又は学習要項に掲載しており、学生が科目選択及び準備学習の参考にしている。

これらのことから、教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成され、活用されている。

観点 5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

【観点に係る状況】

基礎学力不足の学生に対する補習授業や習熟度別クラス編成などの組織的な対応の一例として、農学部では、数学、物理学、生物学、化学からなる専門基礎科目の授業科目を中心に、補習授業を開講するとともに、数学において習熟度別クラス編成を導入している。また、理工学部においても各学科が基礎学力不足の学生に対して補習授業を開講している（資料 5-2-④-A）。さらに、全学的に英語能力の強化を目指して、平成 25 年度入学者から、入学時の英語力とその後の推移を測定・評価するために「全学統一英語能力テスト」（TOE I C-I P テスト）を受験させ、その結果をもとに 1 年次後学期に開講する英語 B において習熟度別クラスを編成し（別添資料 5-2-④-1）、初級クラスの学生には e-TOE I C による時間外学習を義務付けている。

また、e ラーニングスタジオでは、LMS（学習管理システム）を活用した「リメディアル数学」などを基礎学力不足の学生に提供している（参照資料 5-2-④-ア～イ）。学習指導においては、「チューター（担任）制度に関する実施要項」（別添資料 5-2-④-2）に基づき、チューター（担任）による学力不足の学生を指導する体制を整え、さらに、1、2 年次の学習相談に上級生が応じる「学習アドバイザー」（別添資料 5-2-④-3）の制度を整備している。

資料 5-2-④-A： 組織的に実施している補習授業等の実施状況（平成 22～26 年度）

番号	種別	実施している学部・学科名等	具体的な実施内容
1	補習授業	文化教育学部	音楽、ピアノ、美術、体育実習といった実技系科目において補習授業を実施している。
2	補習授業	文化教育学部	学校教育課程理科選修では、正課外で物理、化学、生物、地学の 4 分野で新入生の希望者に対して補充授業が、また正課の「化学通論 I、II」と「物理学通論 I、II」において、履修者に対して補充授業が行われている。
3	補習授業	理工学部・知能情報システム学科	学習アドバイザー制度を用いた成績下位者の自習学習支援（基礎解析学 I・II、線形数学 I、工業数学 I、プログラミング概論 I・II、プログラミング演習 I・II）
4	補習授業	理工学部・機能物質化学科	1,2 年次科目について単位を修得できなかった学生を対象として補習授業や課題を課した上で再試験を実施している。
5	補習授業	理工学部・機械システム工学科	微分積分学 I・II、工業力学 I・II、線形代数学の単位を修得できなかった学生を対象とした卒業要件単位に含めない「機械工学基礎演習」5 科目を実施している。
6	補習授業	理工学部・電気電子工学科	必修の講義科目や演習科目について、学科で期間を設定し、補習授業や再試験を実施している。
7	補習授業	理工学部・電気電子工学科	1 年次生に対して、時間割の空き時間に自習時間を設定し、全員出席させている。
8	習熟度別クラス編成	農学部	1 年次前学期に専門基礎科目として、数学（基礎数学）、物理、科学、生物を開講している。数学は習熟度別にクラスを編成している。

(出典：事務局資料)

別添資料 5-2-④-1 : TOEIC-IP テストの結果と英語Bの能力別クラス編成の状況
別添資料 5-2-④-2 : 佐賀大学チューター (担任) 制度に関する実施要項
別添資料 5-2-④-3 : 学習アドバイザー配置表 (平成 27 年度前学期)

参照資料 5-2-④-ア : e ラーニングスタジオの自学自習用コンテンツ
(<http://net.pd.saga-u.ac.jp/e-learning/works/lms.html>)

参照資料 5-2-④-イ : e ラーニングスタジオの LMS (学習管理システム)
(http://netwalkers.pd.saga-u.ac.jp/guidance_e/guidance_e.html)

【分析結果とその根拠理由】

基礎学力不足の学生対しては、組織的な補習授業の実施や LMS を活用した自学自習用コンテンツ「リメディアル数学」などを提供している。また、全学統一英語能力 (TOEIC-IP) テストの結果により英語授業科目の習熟度別クラス編成を行い、初級クラス学生には e-TOEIC による時間外学習を義務付けている。学習指導においてもチューター (担任) 制度や学習アドバイザー制度を整備し、学習支援を行っている。

これらのことから、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われている。

観点 5-2-⑤: 夜間において授業を実施している課程 (夜間学部や昼夜開講制 (夜間主コース)) を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-2-⑥: 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業 (添削等による指導を含む)、放送授業、面接授業 (スクーリングを含む)。若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-3-①: 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

本学の学士課程において卒業までに学生が身に付けることが望まれる学習の成果を体系的・具体的に示すものとして「佐賀大学 学士力」(資料 5-3-①-A) を定め、これを各学部・学科 (課程) における教育目的に照らして、卒業までに学生が身に付けるべき体系的・具体的学習成果の達成を学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) として定めている (資料 5-3-①-B、参照資料 5-3-①-ア)。各学科 (課程) の学位授与の方針は、佐賀大学学士力に沿って、「1. 基礎的な知識と技能」、「2. 課題発見・解決能力」、「3. 個人と社会の持続的な発展を支える力」の範疇ごとに知識・技能等の修得の達成指標として明確に定めており、各教育課程は、佐賀大学学士力と学位授与の方針とのクロスチェック表を用いてそれらの体系的・整合性を検証している (資料 5-3-①-C)。

資料 5-3-①-A : 佐賀大学学士力

佐賀大学 学士力

佐賀大学では、基礎的及び専門的な知識と技能に基づいて課題を発見し解決する能力を培い、個人として生涯にわたって成長し、社会の持続的発展を支える人材を養成する。そのために、佐賀大学の学士力を次のとおり位置づける。

1. 基礎的な知識と技能

(1) 文化と自然

世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化(芸術及びスポーツを含む)的素養を身につけている。

(2) 現代社会と生活

健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる。

(3) 言語・情報・科学リテラシー

- ① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解できるとともに、自らの意思を表現し他者の理解を得ることができる。英語を用いて、専門分野の知識を修得でき、自己の考えを発信できる。初修外国語を用いて、簡単な会話ができ平易な文章を読み書きできる。
- ② 情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。
- ③ 科学的素養を有し、合理的及び論理的な判断ができる。

(4) 専門分野の基礎的な知識と技法

専門分野において、基本概念や原理を理解して説明でき、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析できる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の基礎的な知識と技法を応用することができる。

(3) 課題解決につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動でき、また、他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために他者の立場で物事を考えることができる。また、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 持続的な学習力と社会への参画力

様々な問題に積極的に関心を持ち、自主的・自律的に学習を続けることができる。自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯にわたり自己を活かす意欲がある。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観を身につけ社会生活で守るべき規範を遵守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与する姿勢を身に付けている。

(出典：佐賀大学ホームページ(<http://www.saga-u.ac.jp/koho/2010gakushiryoku.html>))

資料 5-3-①-B: 学位授与の方針例示 (医学部看護学科)

【学位授与の方針】

教育目的・教育目標を実現するために、佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

1. 知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、基礎的な知識と技能ならびに多様な文化と価値観を理解するとともに、それらの知識を基に、医療職者としての自己の存在を歴史・社会・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 看護学・医療分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、看護職者としての業務を遂行する職業人として必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や多面的な臨地実習の学習を通して地域における保健・医療・福祉をめぐる動向等を含む現代的な課題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 専門的な看護実践の学習を通して看護理論やエビデンスの検証を基盤にした保健・医療の進歩における看護学研究的の必要性を理解し、課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) グループ学習や臨地実習を通して人間理解に立った良い人間関係の形成、医療チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 看護を担う社会人としての資質

- (1) 看護過程の展開における課題解決（型）学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、絶えず看護の質の向上に向けて生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (2) 4年間の教養教育及び専門教育課程を通して高い倫理観と多様な文化や価値観を理解しうる豊かな人間性を育み、看護職者の責務への十分な自覚のもとに、自らを律して社会および看護職者の規範に従って行動できる。

(出典：医学部看護学科学習案内（平成 27 年度）)

資料 5-3-①-C: 佐賀大学学士力と学位授与の方針とのクロスチェック表例示 (医学部看護学科)

医学部	看護学科	学士力										
		1. 基礎的な知識と技能			2. 情報発見・解決能力				3. 個人と社会の持続的発展を支える力			
		(1) 文化と自然	(2) 現代社会と生活	(3) 言語・情報・科学リテラシー	(4) 専門分野の基礎的な知識と技法	(1) 現代の課題を見出し、解決の方法を探る能力	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	(3) 高い倫理観と社会的責任感	
		世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化(芸術及びスポーツを含む)的素養を身につけている。	健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる。	① 日本語による文書や媒体で他者の思想的・論理的に理解できるとともに、自らの意見を明確に述べ、他者の意見を尊重し、他者の意見を参考に、他者の意見を踏まえて、専門分野の知識を修得でき、自己の考えを論述できる。② 情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。③ 科学的素養を有し、合理的及び倫理的な判断ができる。	専門分野において、基本概念や理論を理解して説明でき、一般的に用いられている重要な技法を習得している。	現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析することができる。	専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の基礎的な知識と技法を応用することができる。	課題解決のために、他者と協調・協働して行動でき、また、他者に方向性を示すことができる。	文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために他者の立場で物事を考え、また、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。	様々な問題に積極的に関心を持ち、自主的・自律的に学習を続けることができる。自己の生き方を考察し、具体的に社会的役割を担い、決定し、生涯にわたり自己を活かす意欲がある。	高い倫理観を身につけ社会生活で守るべき規範を遵守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与し、自らを高めようとする意欲がある。	
1. 知識と技能	(1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、基礎的な知識と技能ならびに多様な文化と価値観を理解するとともに、それらの知識を基に、医療職者としての自己の存在意義・社会・自然・人間生活と関連付けて理解できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
2. 課題発見・解決能力	(2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーションスキルを身に付け、情報通信技術(ICT)などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルを併せて効果的に活用することができる。			◎	◎	◎						
3. 看護を担う社会人としての責	(3) 看護学・医療分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、看護職者としての業務を遂行する職業人として必要な実践能力を有する。					◎						
学位授与の方針	(1) 実践演習型学習や多面的な臨床実習の修得を通して地域における保健・医療・福祉に求められる多様な現代の課題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。						◎	◎				
	(2) 専門的な看護実践の学習を通して看護理論やエビデンスの検証を基盤とした保健・医療の進歩における看護研究の必要性を理解し、課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。								◎			
	(3) グループ学習や臨床実習を通して人間理解に立った良い人間関係の形成、医療チームの一員としての役割・役割した行動、リーダーシップを発揮する率直な行動、先輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。									◎		
	(1) 看護過程の展開における課題解決(型)学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、絶えず看護の質の向上に向けて生涯学習を行う意欲と態度を有する。										◎	
	(2) 4年間の教養教育及び専門教育課程を通して高い倫理観と多様な文化や価値観を理解し、豊かな人間性を育み、看護職者の責務への十分な自覚のもと、自らを律して社会および看護職者の規範に従って行動できる。									◎		◎

(出典：教務専門委員会資料)

参照資料 5-3-①-A: 各教育課程における学位授与の方針 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html>)

【分析結果とその根拠理由】

卒業までに学生が身に付けることが望まれる学習の成果を体系的・具体的に示すものとして「佐賀大学 学士力」を定め、これを各学部・学科(課程)における教育目的に照らして、卒業までに学生が身に付けるべき体系的・具体的学習成果の達成を学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)として定めている。

観点 5-3-②: 成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に沿って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか

【観点に係る状況】

成績判定及び基準については、学則第 22 条及び「佐賀大学成績判定等に関する規程」(資料 5-3-②-A)において定めており、これらの規程は学生便覧などに掲載し、学部オリエンテーションや学科(課程)ごとの教務ガイダンス等において学生に周知を図っている(別添資料 5-3-②-1)。また、「シラバス作成の手引き」(別添資料 5-2-③-1【再掲】)に従って、オンラインシラバスに各科目の成績評価の方法と基準を明記し、学生に周知するとともに、その基準に即して、平素の学修状況、レポート及び試験等を総合的に判断して成績評価、単位認定を行って

いる(資料5-2-③-B【再掲】)。これらの基準に対する周知度に係る授業評価アンケート及び学生対象調査の結果では、高い周知の程度を示している。(資料5-3-②-B)。

また、GPA制度を導入し、全授業科目について成績評価(GPA)分布に基づいた図表を作成し(別添資料5-3-②-2)、各部局において組織的に成績評価の適切性を検証している(資料5-3-②-C)。個々の学生については、総合GPA及び学期毎のGPAを成績表に明記しており、ラーニング・ポートフォリオにおいて学士力や技術者教育プログラムの達成状況を確認し、成績優秀者に対するCAP制の上限緩和、学部長表彰対象者を選考している。また成績不振の学生に対して、全学科(課程)が「GPAを活用した学習指導」を定め、学習指導に利用している。

なお、理工学部では、知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科、電気電子工学科の教育プログラムがJABEEから認定を受けており、その認定に当たっては、成績評価、単位認定等に係る審査を受けている(参照資料5-3-②-7)。

資料5-3-②-A： 学則第22条および成績判定等に関する規程

(成績の判定)

第22条 学生が一の授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

(出典：佐賀大学学則)

(趣旨)

第1条 成績判定及び試験等に関する事項は、佐賀大学学則(平成16年4月1日制定)に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(成績の判定・評価基準)

第2条 成績判定は、平素の学修状況、学修報告、論文及び試験等によって行う。

2 成績の評語(評価)は、評点又は評価基準に基づき判定するものとし、評点及び評価基準は次の表に掲げるとおりとする。

評語(評価)	評点	評価基準
秀	90点以上 100点満点	学修到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を上げている。
優	80点以上 90点未満	学修到達目標を十分に達成している。
良	70点以上 80点未満	学修到達目標を概ね達成している。
可	60点以上 70点未満	学修到達目標を最低限達成している。
不可	60点未満	学修到達目標を達成していない。

3 前項の表の評語(評価)のうち、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。

(試験)

第3条 試験は、各授業科目につき、学期ごとに行うことを原則とする。

2 定期試験の時間割は、少なくとも1週間前に公示する。

(成績の取消し)

第4条 一度判定された成績は、取り消すことができない。

(合格科目の再履修)

第5条 学生は、一度合格と判定された授業科目については、再履修をすることができない。

(定期試験における不正行為)

第6条 学生が定期試験において不正行為をしたときは、当該学生がその定期試験期間中に受験した全ての試験科目の成績を無効とする。

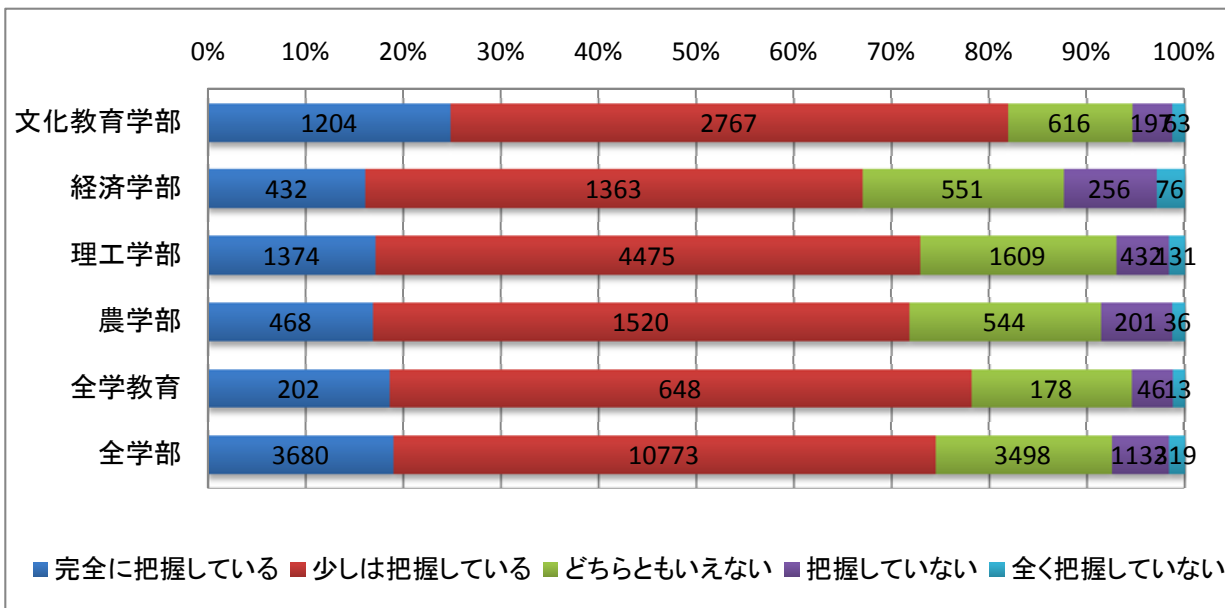
(実験等における不正行為)

第7条 学生が実験、実習、学修報告、論文又は平素の試験等において不正行為をしたときは、当該実験、実習、学修報告、論文又は平素の試験等に係る科目の成績を無効とする。

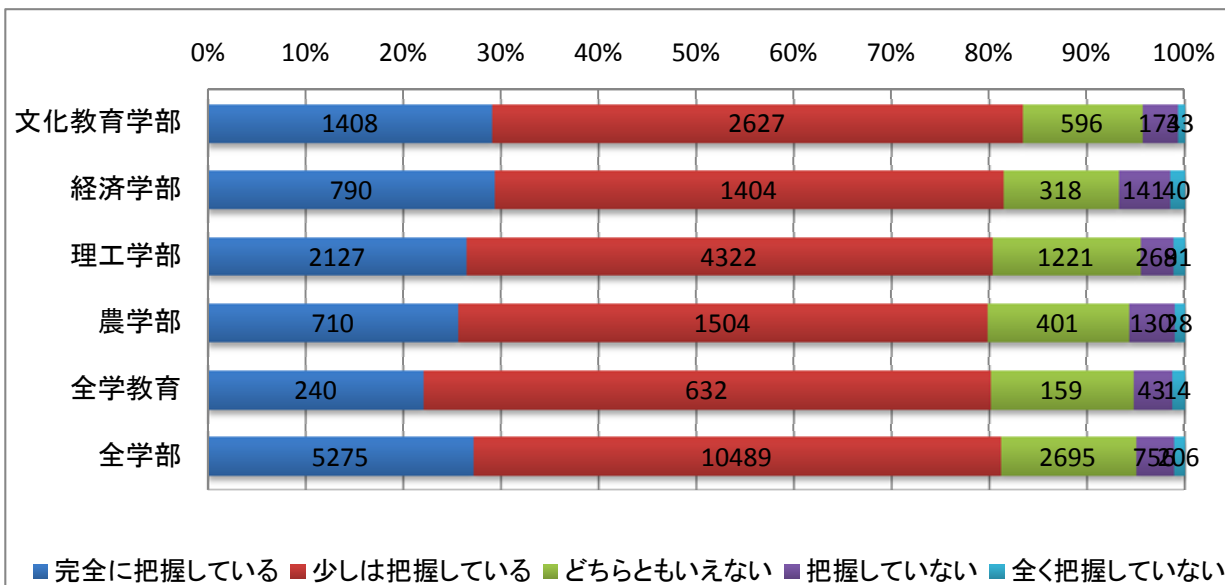
(出典：佐賀大学成績判定等に関する規程)

資料5-3-②-B： 履修した授業科目の成績評価に関する情報開示方法の周知状況（平成26年度）

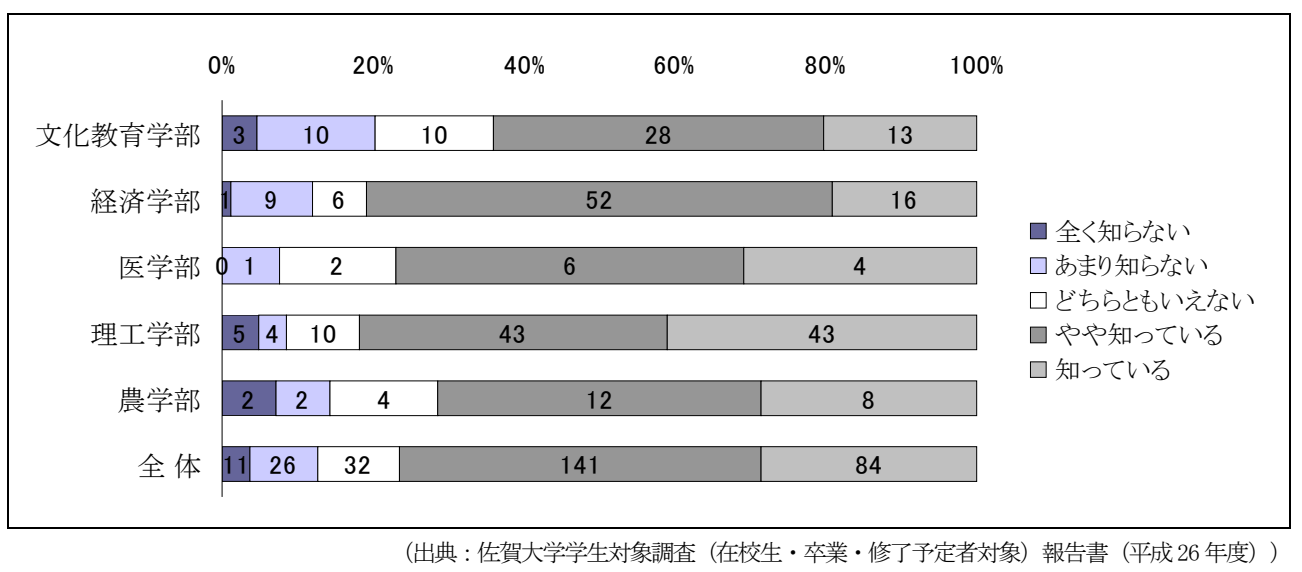
A-4 授業の学習目標を把握している



A-5 授業の成績評価基準を把握している



(出典：授業評価アンケート報告書（平成26年度）)



資料 5-3-②-C： 各授業科目の GPA 分布に基づいた成績評価の妥当性検証例 (平成 26 年度)

中期計画番号 004-01 必修科目の成績分布点検

学部：理工学部
IR 室から提供された、各授業科目の成績度数分布をもとに、各学科で授業科目ごとの成績分布を点検した。

学科	検証状況	今後の改善策
数理科学科	多くの科目では、正規分布に近い形をしているが、一部の科目において「秀」と「可」に多く集まる二極化の傾向が見られる。	学力レベルの低い学生を考慮して、講義と演習の授業において基礎的問題に焦点を当てて、丁寧に解説をしていく。
物理科学科	科目によって成績分布の傾向が異なるが、大雑把に云って正規分布に近い科目と、二極化した分布の科目に大別できそうである。	現在のところ、喫緊に改善を要する科目は見られない。
知能情報システム学科	本学科の専門必修科目のうち、在学生の合格率が 80%未満の科目が 10 科目あった(情報理論、データ構造とアルゴリズム、線形数学Ⅱ、基礎解析学Ⅱ、基礎解析学Ⅰ、ソフトウェア工学、情報代数と符号理論、データベース、オブジェクト指向開発、工業数学Ⅰ)。 本学科の専門選択科目のうち、在学生の合格率が 80%未満の科目が 5 科目あった (応用線形数学、形式言語とオートマトン、信号処理、数値解析、プログラミング言語論)。 これらの科目の度数分布には、“可”が多いという特徴があった。	合格率の低い科目の担当教員を含む学科全体に、合格率の現状を教室会議で周知した。 また、合格率の低い専門必修 10 科目と、同じく合格率が 80%未満であった初修外国語 2 科目に対しては、いずれの科目の単位を落としても留年することが無いように、次年度の必修科目と同時期にならないように (コマが重ならないように)、時間割を変更した。
機能物質化学科	平成 25 年度に比べて平成 26 年度前期の状況では、たいていの科目で正規分布からのずれが改善された。しかし一部の専門科目で不可や可の評価の割合が増加している。	学科内の教育改善委員会から平均点数が 60 点に満たない教科及び 90 点以上の教科の担当者に対して改善案の提示を求めた。また、改善案の妥当性に対しては学科内の教育改善委員会において精査している。
機械システム工学科	ほとんどの科目で、正規分布に近い分布となっているが、一部の専門科目で、不可や放棄の評価の割合が増加し分布の二極化傾向が認められる。	平成 26 年度から、これまで 2 年次で開講していた機械工学基礎演習 (自由科目) を 1 年次から受講できるように時間割を変更した。今後の成績分布の推移を点検することで、更なる改善策を検討したい。
電気電子工学科	科目グループ会議、カリキュラム検討委員会において、提供された資料をもとに必修科目の成績分布を点検した。その結果、全ての必修科目で妥当な成績評価が行われていることを確認した。	現時点で改善が必要と判断された科目はないが、今後も定期的に点検を行うことが確認された。
都市工学科	ほとんどの科目では、正規分布に近い分布となっているが、一部の基礎科目では、近年の入学学生学力の低下を反映して、可、不可の割合が多くなっている。	教育システム委員会で 1 年次数学科目の内容構成について議論し、一部、難解と思われる内容を 2 年次以降の選択科目に移行した。

(出典：平成 27 年度 教務専門委員会資料)

別添資料 5-3-②-1：学科の教務ガイダンスにおける成績評価・卒業要件等に関する説明資料例
別添資料 5-3-②-2：組織的な成績評価の妥当性検証のための授業科目の成績 (GPA) 分布例 (平成 26 年度)

参照資料 5-3-②-ア：JABEE 認定に関するウェブサイト
理工学部知能情報システム学科 (<http://lecture.is.saga-u.ac.jp/jabee/>)
理工学部機能物質化学科 (<http://www.chem.saga-u.ac.jp/ChemEdu/jabee/jabee.html>)
理工学部機械システム工学科 (<http://www.me.saga-u.ac.jp/>)
理工学部電気電子工学科 (http://www.ec.saga-u.ac.jp/fse_ee/ee_pamph_current.pdf)

【分析結果とその根拠理由】

学則等で成績判定区分を規定し、学生便覧に掲載するとともにウェブサイトで公開し、学科・課程毎の教務ガイダンス等により学生に周知するとともに、授業科目ごとに成績評価の方法・基準をオンラインシラバスに明記し、それに基づき成績評価、単位認定を行っている。また、学生アンケートから学生が成績評価の基準をよく認識していることが確認できる。さらに、全授業科目の成績評価（GPA）分布に基づき組織的に成績評価の適切性を検証している。これらのことから、教育の目的に応じた成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されている。

観点 5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

「成績判定等に関する規程」（資料 5-3-②-A【再掲】）に基づき成績判定を行い、成績評価の厳格性を担保するための措置として、定期試験における不正行為及び実験等における不正行為に対する成績評価の取扱いを明記して適用している。また、「シラバス作成の手引き」（別添資料 5-2-③-1【再掲】）に従い、シラバスに測定可能な科目の到達目標を明記し、それに基づいた成績評価の方法と基準を記載し、これを「シラバスの点検及び改善に関する要項」及び「シラバス点検表」（資料 5-2-③-C～D【再掲】）に基づき組織的に点検して、成績評価の客観性、厳格性を担保している。さらに、全授業科目の成績評価（GPA）分布に基づき組織的に成績評価の妥当性を検証している（資料 5-3-②-C【再掲】、別添資料 5-3-②-2【再掲】）。なお、JABEE 認定プログラムでは、開講前点検や閉講後点検などを実施し、成績評価の妥当性だけでなく、授業内容についても検証している（参照資料 5-3-③-了）。

また、「成績評価の異議申立てに関する要項」（資料 5-3-③-A）を定め、学生は担当教員に申し出て、成績評価の根拠となった答案、レポート等を閲覧できることとし、シラバスにおいても「開示する試験問題等」を記載して（資料 5-3-③-B）、学生に周知している（資料 5-3-③-C）。学生は成績評価に異議がある場合は、学部長に異議を申立てることができるものとし、当該学部の教務委員会等において、その申立ての内容等を調査・検討し、教授会の議を経て対応している。

資料 5-3-③-A： 成績評価の異議申立てに関する要項

成績評価の異議申立てに関する要項

(平成 19 年 1 月 30 日制定)

1. 全授業科目において、担当教員は、成績評価に用いた答案、レポート等を成績通知後から 3 か月間保存するものとする。
2. 学生は、成績通知後、1 か月以内（やむを得ない事情がある場合は、2 か月以内）に担当教員に申し出て、自己の提出した答案、レポート等を確認するため、閲覧することができる。
3. 学生は、成績評価に質問又は異議がある場合は、成績通知後 1 か月以内（やむを得ない事情がある場合は、2 か月以内）に担当教員に申し出ることができる。担当教員との協議によっても成績評価に対する疑義が解決されない場合又は担当教員と協議ができない場合には、学生は学部長（教養教育科目にあっては、教養教育運営機構長、大学院の授業科目にあっては研究科長とする。以下同じ。）に異議を申し立てることができる。
4. 前項後段の異議の申立てがあった場合は、学部、教養教育運営機構及び研究科の教育に関する委員会において申立て内容等を調査・検討する。その結果を踏まえ、学部長は、教授会（教養教育科目にあっては、教養教育運営機構協議会、大学院の授業科目にあっては、研究科委員会。以下「教授会等」という。）の議を経て、対応を決定する。

5. 前項教授会等の審議結果は、当該学生に通知する。また、該当科目の評価に要する情報、答案、レポート等は、教授会等の議が終了するまで保存するものとする。

附 則

この要項は、平成19年2月1日から実施する。

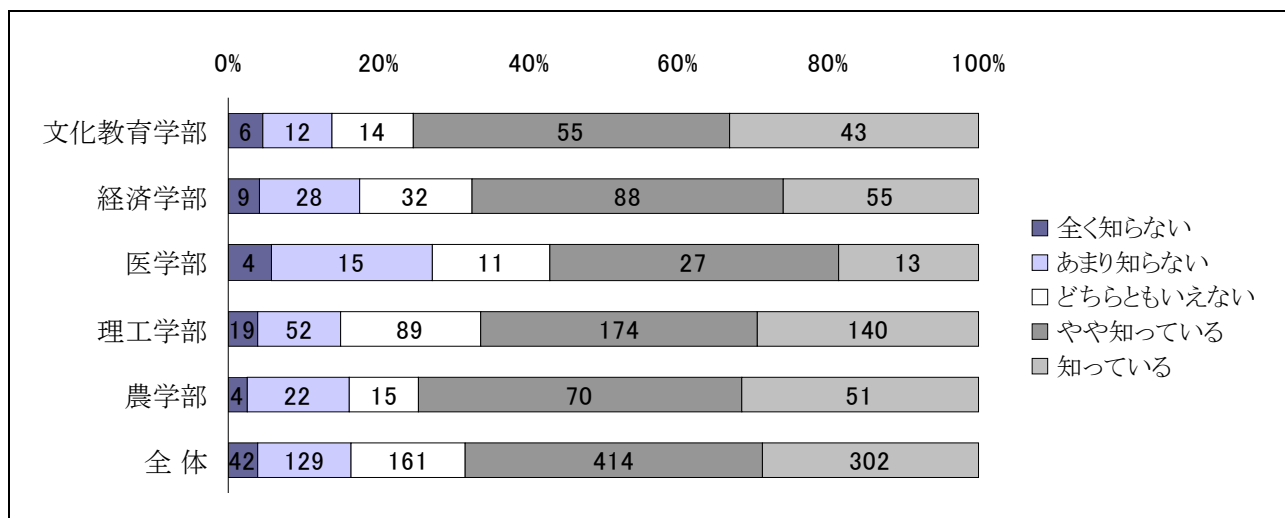
(出典：事務局資料)

資料5-3-③-B： 試験問題、解答例等の開示方法

開示する試験問題等	<p>前年度実施分については、以下のものを事前に提示する。</p> <p>(1)レポート等の課題 (2)レポート等の解答例または出題の意図 (3)配点</p> <p>今年度実施分については、以下のものを開示する。</p> <p>(1)客観テストおよびレポート (2)採点結果の詳細</p>
開示方法	<p>前年度実施分については、履修予定者に授業の第1回(オリエンテーション)で資料等を配布する。今年度実施分については、成績報告完了後、履修者の求めに応じて開示する。</p>

(出典：オンラインシラバス)

資料5-3-③-C： 成績評価の異議申立て制度の周知状況



(出典：佐賀大学学生対象調査(在校生・卒業・修了予定者対象)報告書(平成26年度))

参照資料5-3-③-A： J A B E E認定に関するウェブサイト

理工学部知能情報システム学科 (<http://lecture.is.saga-u.ac.jp/jabee/>)

理工学部機能物質化学科 (<http://www.chem.saga-u.ac.jp/ChemEdu/jabee/jabee.html>)

理工学部機械システム工学科 (<http://www.me.saga-u.ac.jp>) ページの下のほうへスクロール

理工学部電気電子工学科 (http://www.ee.saga-u.ac.jp/fse_ee/info/H25/H250525.html)

【分析結果とその根拠理由】

成績評価の方法と基準をシラバスに記載し、その内容を組織的に点検して、成績評価の客観性、厳格性を担保するとともに、全授業科目の成績(GPA)分布に基づいて、成績評価の客観性・厳格性を検証している。また、「成績判定等に関する規程」により成績判定を行い、「成績評価の異議申立てに関する要項」を制定して、学生が

異議申し立てできる制度を採用し、学生に周知している。これらのことから、成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられている。

観点 5-3-④： 学位授与方針に沿って卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に沿って卒業認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

卒業要件等の卒業認定の規定は、学則第 35 条（資料 5-3-④-A）及び各学部規則（参照資料 5-3-④-7）で定められており、各学部は、学科（課程）ごとに定めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（参照資料 5-3-④-1）に基づいて卒業認定の審査基準を定め、学生便覧等に掲載し、オリエンテーション、学科・課程ごとのガイダンス等において学生に周知を図っている（別添資料 5-3-②-1【再掲】）。なお、卒業認定基準の周知度アンケート調査の結果は、高い周知の程度を示している（資料 5-3-④-B）。

また、各教育課程は、学位授与の方針に沿って学習成果を総合的に判断するための方法を定め（資料 5-3-④-C、別添資料 5-3-④-1）、平成 23 年度入学生の卒業認定から、学士力の項目毎の単位数の達成状況と GPA による質の達成状況を確認し（別添資料 5-3-④-2）、卒業認定の適切さを担保している。

卒業認定は、教務委員会等で事前に審査し、教授会の議を経て学長が認定している（別添資料 5-3-④-3）。

資料 5-3-④-A： 学則第 35 条

（卒業の認定）

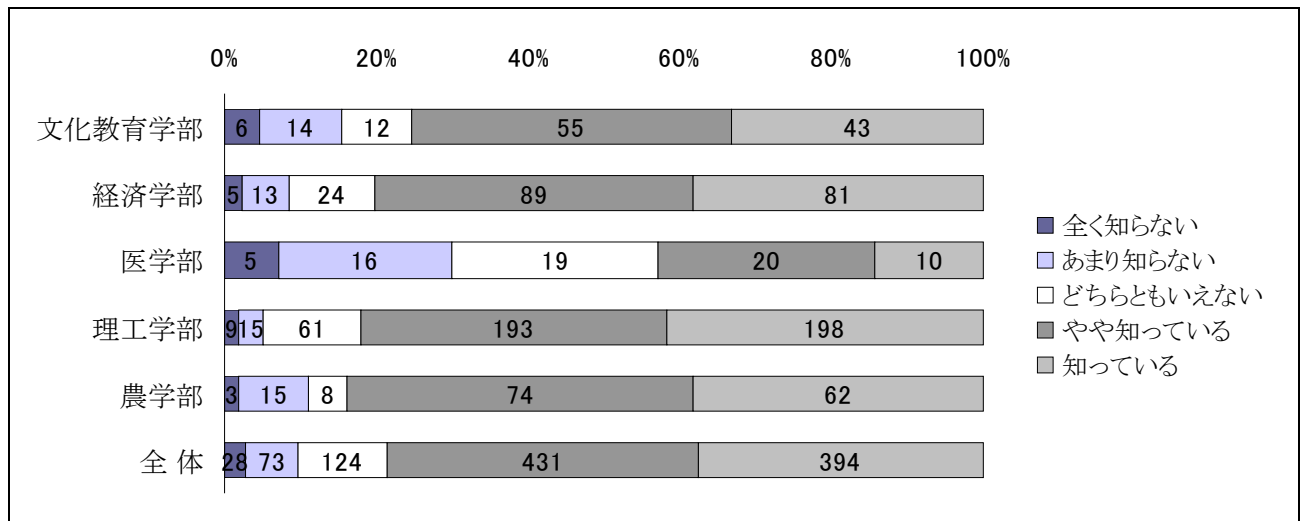
第 35 条 第 6 条第 1 項本文又は第 2 項に規定された期間以上在学し、第 17 条に規定された所定の単位を修得又は授業時間を履修した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

2 本学（医学部医学科は除く。）に 3 年以上在学し、第 17 条に規定された所定の単位を優秀な成績で修得したと認められる者が、第 6 条第 1 項ただし書に定める修業年限で卒業を希望した場合には、別に定めるところにより、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与することができる。

3 前 2 項の規定により卒業の要件として修得すべき 124 単位のうち、第 18 条第 2 項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。ただし、卒業の要件として修得すべき単位数が 124 単位を超える場合において、当該単位数のうち、第 18 条第 1 項の授業の方法により 64 単位以上を修得しているときは、同条第 2 項の授業の方法により取得する単位数は、60 単位を超えることができるものとする。

（出典：佐賀大学学則）

資料5-3-④-B: 所属する学部での卒業認定基準の周知状況 (平成26年度)



(出典：佐賀大学学生対象調査 (在校生・卒業・修了予定者対象) 報告書 (平成26年度))

資料 5-3-④-C : 学習成果を総合的に判断するための方法例 (理工学部 数理科学科)

理工学部における学習成果を総合的に判断する仕組み		
H25. 2. 6		
数理科学科 平成24年度以前入学生		
学習成果を総合的に判断する仕組み		
(1) 指導教員による、学士力の達成状況等の確認を行う。		
(2) 卒業研究を通じて、学生に、研究成果の評価点(判断項目)を理解させる。		
(3) 数理科学科の教員により、学習成果の各判断項目について審査を行う。		
学習成果		判断項目
1 基礎的な知識と技能	(1) 文化・自然・現代社会と生活に関する基礎的科目を修得し、幅広い教養に裏打ちされた広範な視点をもつ能力を身につけている。	研究テーマの社会的な意義 主題科目
	(2) 言語・情報・科学に関する基礎科目を履修・修得し、日本語と英語による基礎的コミュニケーション能力を身につけている。	基礎的コミュニケーション能力 共通基礎教育科目
	(3) 基礎的数学から応用にいたるまでの幅広い知識と高度な計算能力を有し、それらを社会に役立てることができる。	数学に関する基礎的・専門的知識・技能 専門基礎科目
2 課題発見・解決能力	(1) 講義と演習を通して数学に関連した様々な問題について関心・理解を持ち、論理的厳密な思考に基づいて問題解決に取り組むことができる。	研究テーマの適切な設定と解決 専門周辺科目 専門科目
	(2) 卒業研究を通して専門書を読解し、直面する諸問題を正確に理解し、解析する力とプレゼンテーション能力を身につけている。	研究内容についてのプレゼンテーション能力 数学講究及び卒業研究
	(3) 数学の様々な分野の専門科目を広範に履修することにより、数学の各分野における問題を理解し、それらを解決するための論理を修得している。	研究内容における適切な論理展開力 専門科目
3 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 社会に広く存在する多様な需要や問題を認識し、数学的思考によりこれらに対処できる。	研究テーマに関する社会的な課題と課題解決への論理的思考力
	(2) 幅広い教養と数学的論理性を用いて様々な問題を解決し、社会の発展に寄与することができる。	数学講究及び卒業研究
	(3) 生涯を通じて数学的論理性に基づく冷静で正確な判断力を保持し続け、これにより自己の思考能力、判断能力を持続的に発展させることができる。	

(出典：教務専門委員会資料)

別添資料 5-3-④-1 : 学習成果を総合的に判断する仕組み
別添資料 5-3-④-2 : 学習成果の学士力項目別の達成状況チェック表例 (平成 26 年度)
別添資料 5-3-④-3 : 教授会における卒業認定判定資料例 (平成 26 年度)

参照資料 5-3-④-ア : 各学部規則

文化教育学部 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/305.html>)

経済学部 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/275.html>)

医学部 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/43.html>)

理工学部 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/331.html>)

農学部 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/278.html>)

参照資料 5-3-④-イ : 各教育課程における学位授与の方針

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html>)

【分析結果とその根拠理由】

学則等に定める卒業認定の規定や学位授与の方針に基づく卒業認定審査の基準を、学生便覧や学科・課程のガイダンス等により学生に周知し、学生も基準をよく認識している。卒業認定審査に当たっては、学位授与の方針に基づき、教授会で厳格な審査が行われている。

これらのことから、教育の目的に応じた卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、卒業認定が適切に実施されている。

＜大学院課程＞

観点 5-4-①： 教育課程の編成・実施方針が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

大学院学則第 11 条の 2 「教育課程の編成」において「大学院は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする」、同条第 2 項「教育課程の編成に当たっては、大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない」と規定している。各研究科・専攻は、教育目的に照らして修了生が身につけるべき具体的学習成果の達成を学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）として定めており（後述：観点 5-6-①）、その達成に導くための「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を各研究科・専攻で定めている（資料 5-4-①-A、参照資料 5-4-①-ア）。

資料 5-4-①-A： 教育課程の編成・実施方針例（工学系研究科 システム創成科学専攻）

システム創成科学専攻

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

- (1) 学位授与の方針(1)を修得するために、「研究科専門科目」を配置する。
- (2) 学位授与の方針(2)を修得するために、「研究科特別講義」および「総合セミナー」を開講する。
- (3) 学位授与の方針(3)を修得するために、「特別実習・演習」および「特定プロジェクトセミナー」を開講する。
- (4) 学位授与の方針(4)を修得するために、研究成果の学会発表や学術論文作成のほか、「総合セミナー」、「特別実習・演習」および「特定プロジェクトセミナー」を開講する。

2. 教育の実施体制

- (1) 研究指導は、主指導教員1名および副指導教員2名以上によって行う。
- (2) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する担当教員を配置する。

3. 教育・指導の方法

指導教員は、次の(1)から(6)の項目について、学生が入学した時点で研究指導計画を作成し、年度毎に計画の進捗状況を検証しながら、博士論文作成まで計画的な指導を行う。常に研究の進捗状況を把握し、定期的な意見交換および研究討議を行うことで、きめ細かな指導を実施する。

- (1) 研究課題の設定および研究計画の立案に対する適切な指導を行う。
- (2) 研究を遂行するうえでの基礎的な知識や技術を習得させる。
- (3) 研究室セミナーにより研究結果に基づいた論理的結論の誘導および研究を総括する能力を身につけさせる。
- (4) 国内外の学会に於ける研究成果の発表を指導し、研究交流を勧める。
- (5) 国内外の査読付き学術誌に投稿するための論文執筆を指導する。
- (6) 博士論文の作成を指導する。

4. 成績の評価

各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し、それに則した成績評価を行う。

博士論文は、主査1名および副査3名以上によって以下の項目について審査する。

- (1) 博士論文の内容については、その分野での意義、新規性および独創性が十分であることを審査する。

- (2) 公聴会を開催し、研究の目的、結果および結論が明確に説明されるか、また、質疑応答の適切さを評価する。
(3) 最終試験を実施し、博士論文の内容に関連した学力を問う。

(出典：佐賀大学の教育方針 大学院工学系研究科 (平成 27 年度))

参照資料 5-4-①-ア：各研究科専攻の教育課程編成・実施の方針 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html>)

【分析結果とその根拠理由】

各研究科・専攻の教育目的に照らして定めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、それを達成するための方針を、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）として明確に定めている。

観点 5-4-②： 教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。

【観点に係る状況】

大学院学則第 11 条の 2 に定める教育課程の編成方針及び各研究科の「教育課程編成・実施の方針」(参照資料 5-4-②-ア) に基づいて、学位授与の方針に定めた修了生が身につけるべき具体的学修成果を達成できるように、教育課程を体系的に編成している。各研究科は履修案内や学習要項に、学位授与の方針の項目別のカリキュラムマップを掲載し、教育課程の体系性を示している (資料 5-4-②-A、参照資料 5-4-②-イ)。

各研究科は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、関連する分野の基礎的素養を涵養するように、基礎教育科目、専門教育科目、研究科共通科目、特別なコースに係る授業科目等を共通必修科目、コース必修科目、選択あるいは選択必修科目として配置し、各研究科の履修細則別表 (参照資料 5-4-②-ウ)、履修モデル (資料 5-4-②-B、参照資料 5-4-②-イ) に示している。さらに、「学内開放科目開設要項」(別添資料 5-1-③-1【再掲】) を準用し、大学院における基礎的素養と幅広い学識及び能力を涵養するための研究科間基礎科目と各研究科の提供する科目からなる「研究科間共通科目」(資料 5-4-②-C) を開設しており、各研究科は、少なくとも「研究科間共通科目」1 科目を選択必修として配置している (参照資料 5-4-②-エ)。

資料 5-4-②-A : 学位授与の方針別のカリキュラムマップ (部局例示 : 工学系研究科)

履修モデル (カリキュラムマップ)						
代数学分野						
学位授与の方針	科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	修了要件単位
(1)	研究科間共通科目	研究科間共通科目 (1科目)	研究科間共通科目 (1科目)			4
(2)	基礎教育科目	代数学特論 I 幾何学特論 I 解析学特論 I				6
(3)	専門教育科目	多様体特論 II 数理学セミナー I	代数学特論 III 代数学特論 IV 応用数学特論 I 数理学特別講義 I 数理学特別講義 II 数理学セミナー II	代数学特論 II 応用数学特論 II 数理学セミナー III	数理学セミナー IV	20
	履修登録単位数	12	12~14	6	2	30 32
幾何学分野						
学位授与の方針	科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	修了要件単位
(1)	研究科間共通科目	研究科間共通科目 (1科目)	研究科間共通科目 (1科目)			4
(2)	基礎教育科目	代数学特論 I 幾何学特論 I 解析学特論 I				6
(3)	専門教育科目	多様体特論 II 数理学セミナー I	幾何学特論 II 応用数学特論 I 数理学特別講義 I 数理学特別講義 II 数理学セミナー II	多様体特論 I 応用数学特論 II 数理学セミナー III	数理学セミナー IV	20
	履修登録単位数	12	12	6	2	30 32

(出典 : 工学系研究科履修案内 (平成 27 年度))

資料 5-4-②-B： 履修モデル（部局例示：経済学研究科）

<金融・経済政策専攻>

I. 金融・産業政策履修モデル

	演習	共通科目	基礎科目	専門科目	研究科間 共通科目	履修登録 単位数
1年前期	演習Ⅰ		公共財政論研究Ⅰ	国際金融論研究 企業論研究		8
1年後期	演習Ⅰ		行政基礎法研究Ⅰ	発展途上国経済論研究 動学マクロ経済学研究 比較労働経済研究Ⅰ	研究科間 共通科目	8
2年前期	演習Ⅱ 総合セミナー	実用外国語		応用計量経済学研究 産業組織論研究		12
2年後期	演習Ⅱ					2
修了要件単位数	10	2	4	12	2	30

II. 公共経済履修モデル

	演習	共通科目	基礎科目	専門科目	研究科間 共通科目	履修登録 単位数
1年前期	演習Ⅰ		公共財政論研究Ⅰ	農業経済論研究 企業論研究		8
1年後期	演習Ⅰ			比較労働経済研究Ⅰ 経済地理学研究 動学マクロ経済学研究 地域福祉研究	研究科間 共通科目	8
2年前期	演習Ⅱ 総合セミナー	実用外国語	政策評価研究	公共財政論研究Ⅱ		12
2年後期	演習Ⅱ					2
修了要件単位数	10	2	4	12	2	30

* 演習Ⅰ、演習Ⅱは通年科目。総合セミナーは夏期集中講義。

（出典：経済学研究科履修案内（平成27年度））

資料 5-4-②-C： 研究科間共通科目一覧（平成27年度）

平成27年度 研究科間共通科目について

開設研究科等	科目名	単位数
研究科間基礎科目	学術英語特論	2
	職業倫理特論	2
	数値計算法特論	4
	情報セキュリティ特論	2
	人権教育特論	2
	プレゼンテーション英語特論	2
	産学連携特論	2
	ビジネスマネジメント特論	2
教育学研究科	国語教育学特論ⅠA	2
	美学・美術史特論	4
	英語学特論ⅠA	2
	西洋史特論ⅠA	2
経済学研究科	環境法研究Ⅰ	2
	環境法研究Ⅱ	2
	労働関係法研究	2

医学系研究科	社会・予防医学概論	2
	総合ケア科学概論	2
	実験・検査機器特論	1
	生理学特論	1
	環境・衛生・疫学特論	1
	遺伝子医学特論	1
	高齢者・障害者の生活環境(道具と住宅)特論	1
	リハビリテーション医学特論	1
	心理学的社会生活行動支援特論	1
	高齢者・障害者生活支援特論	1
農学研究科	生体構造観察法	2
	応用生物科学特論	1
	土壌物理学特論	1
	農用先端機械学特論	1
	国際環境保健学特論	1
	生命機能科学特論	1
	農業技術経営管理学概論	1

教育学研究科・経済学研究科間科目

開設研究科等	授業科目	単位数
教育学研究科	地理学特論 A1	2
	地理学特論 B1	2
	法律学特論 A1	2
	法律学特論 B1	2
	経済学特論 1	2
	国際経済学特論 1	2
経済学研究科	発展途上国経済論研究	2
	開発経済学研究	2
	経済地理学研究	2
	地域経済論研究	2
	地域政治研究	2

(出典：事務局資料)

参照資料 5-4-②-ア：各研究科専攻の教育課程編成・実施の方針 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhausin.html>)

参照資料 5-4-②-イ：各研究科履修案内/学習要項

医学系以外の研究科 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>)医学系研究科 (<http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/index.html>) から各専攻の学習要項参照

参照資料 5-4-②-ウ：各研究科履修細則

教育学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/687.html>)経済学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/690.html>)医学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/677.html>)工学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/693.html>)農学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/723.html>)

参照資料 5-4-②-エ：研究科間共通科目の選択必修化 (各研究科履修細則)

教育学研究科 第2条、第4条2(4)、3(5)

(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/687.html>)経済学研究科 第2条2項 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/690.html>)医学系研究科 第2条4項 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/677.html>)工学系研究科 第2条4項 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/693.html>)農学研究科 第2条3項 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/723.html>)

【分析結果とその根拠理由】

大学院学則に定める「教育課程の編成方針」及び各研究科の学位授与の方針に基づいて定めた「教育課程編成・実施の方針」に沿って教育課程を体系的に編成し、関連する分野の基礎的素養を修得できるよう研究科共通科目や基礎教育科目等を選択必修として配置している。これらのことから、教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、教育課程の内容・水準が授与される学位名において適切なものになっている。

観点 5-4-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

各教員は、専門分野における学術の発展動向や研究活動の内容を授業の内容や教材等に反映し、最新の知見に基づいた教育・研究指導に努めている（資料 5-4-③-A）。また、各研究科が多様なニーズに配慮した特徴的な教育課程の編成や授業科目には次のようなものがある。

教育学研究科では、学生の実践的な授業研究力を育成するために「実践研究」科目として、附属学校等における「実践授業研究」や大学院教育実習としての「教育実践フィールド研究」を開設している（別添資料 5-4-③-1）。

医学系研究科では、高齢化社会における包括医療のニーズに対応するため、全国でもユニークな取組として医科学専攻の教育課程に「総合ケア科学系コース（修士課程）」及び「総合支援医科学コース（博士課程）」（参照資料 5-4-③-7）を設置している。また、がん医療に対する地域からの要請に応える「臨床腫瘍医師養成特別コース（博士課程）」及び「がん地域医療系コース（修士課程）」、「がん地域診療医師養成特別コース（博士課程）」を設置している（参照資料 5-4-③-1）。

工学系研究科では、全ての授業を英語により行う「戦略的国際人材育成（S I P O P）プログラム」（別添資料 5-4-③-2）を平成 19 年度から開設するとともに、「地球環境科学特別コース」を平成 20 年度から、その発展型である「環境・エネルギー科学グローバル教育プログラム（P P G A）」（別添資料 5-4-③-3）を平成 25 年度から開設している。

農学研究科では高度な農業技術と経営管理能力を有する人材の育成を目的とする実践的な副コース「農業技術経営管理学（農業版 M O T）コース」を設置している（参照資料 5-4-③-9）。さらに、平成 25 年度からは、センター等の学内共同教育施設の研究成果を反映した「共同利用・共同研究拠点及び学内教育研究施設が大学院課程教育のために提供する教育プログラム（センター教育プログラム）」を開設し、学術の発展動向に配慮している（資料 2-1-⑤-D【再掲】）。

そのほか、大学間学術交流協定を締結している諸外国の大学との間で様々な留学制度を実施し、大学院学則第 14 条に基づいて単位認定するとともに、第 23 条（2）に基づいて主に留学生・社会人を対象とした秋季入学制度を実施している（参照資料 5-4-③-5）。また、大学院入学前の既修得単位、社会人入学生等に配慮した長期にわたる教育課程の履修や学生のニーズに対応した他大学院等における研究指導を認定している。

資料 5-4-③-A : 研究活動及び研究業績等を授業の内容や教材に反映させた例

研究科	授業科目	授業内容や教材に反映させた研究活動及び研究業績等
経済学研究科	都市経済学研究	自著『集積の経済と都市の成長・衰退』
医学系研究科	病理学特論	Nomoto-Kojima N, Aoki S, Uchihashi K, Matsunobu A, Koike E, Ootani A, Yonemitsu N, Fujimoto K, Toda S. Interaction between adiposetissue stromal cells and gastric cancer cells in vitro. Cell Tissue Res. 344: 287-298 (2011) など
工学系研究科	応用数学特論 I, II	Yuji HIBINO; Topics on noncanonical representations of Gaussian processes Reports of the Faculty of Science and Engineering Saga University Mathematics Vol. 35(2006) No.1 1-9. など
工学系研究科	マイクロ波集積回路特論	T.Oishi, N.Miura, M.Suita, T.Nanjo, Y.Abe and T.Ozeki “Highly resistive GaN layers formed by ion implantation of Zn along the c axis” J. Appl. Phys. 94 (2003) pp.1662-1666.
農学研究科	昆虫分子生物学特論	Oda, Y., Matsumoto, H., Kurakake, M., Ochiai, M., Ohnishi, A., and Hayakawa, Y., 2010 Adaptor protein is essential for insect cytokine signaling in hemocytes. Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 107, 158862-15867.

(出典：平成 22～26 年度評価基礎情報データ E2 より作成)

別添資料5-4-③-1：教育学研究科履修細則（別表）

別添資料5-4-③-2：「戦略的国際人材育成プログラム」（履修案内）

別添資料5-4-③-3：「環境・エネルギー科学グローバル教育プログラム」（履修案内）

参照資料5-4-③-ア：医学系研究科課程概要 ウェブサイト

修士課程(http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/entrance/m_med/index.html)博士課程(http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/entrance/d_med/index.html)

参照資料5-4-③-イ：医学系研究科学習要項

医科学専攻（修士課程）(http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/master_medical/index.html)

このウェブページから「ダウンロード」の項目を参照

医科学専攻（博士課程）(http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/doctor_medical/index.html)

このウェブページから「ダウンロード」の項目を参照

参照資料5-4-③-ウ：農業技術経営管理学（MOT）教育プログラム ウェブサイト

(<http://www.ag.saga-u.ac.jp/MOT/graduateschool/graduateschool.html>)参照資料5-4-③-エ：大学院入試日程 10月入学 (http://www.sao.saga-u.ac.jp/daigakuin/daigakuin_nyuushi.html)

【分析結果とその根拠理由】

各教員が授業科目の内容に研究成果を反映させるとともに、「学内共同教育施設の研究成果を反映した教育プログラム」を開設するなど、学術の発展動向に配慮している。また、各研究科で開設している種々の特別コース、留学などにおいて他大学院で履修した科目の単位認定、秋季入学、長期にわたる教育課程の履修など、学生のニーズや社会からの要請に配慮した教育課程を編成している。これらのことから、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮している。

観点 5-5-①： 教育の目的に照らして、講義、演習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

【観点に係る状況】

各研究科が定める教育の目的に照らして、各専攻の特性に応じた講義、演習、実習等の授業科目を開講している（資料 5-5-①-A、参照資料 5-5-①-ア）。大学院課程の授業科目は、基本的に少人数教育となっており、担当教員は教育内容に応じて対話・演習型等、学習指導法を工夫している（資料 5-5-①-B）。

また、各研究科における教育の内容に応じた特徴的な学習指導法として、医学系研究科では、研究を行うために必要な研究デザイン（課題の抽出・設定、仮説・立証計略の立案、方策・方法の考案、手順・計画設計等）の理論と研究実践の技術等を学ぶ「研究法」及び「研究実習」や、「臨床病態学特論」、「臨床診断・治療学」において学生の学習・研究目的に応じて 27 のプログラムから選択履修できる演習・実習授業等を行っている（資料 5-5-①-A）。工学系研究科の「環境・エネルギー科学グローバル教育プログラム（PPGA）」（別添資料 5-4-③-3【再掲】）では、日本人学生と外国人学生が共学し、すべての授業科目を英語で行う指導方法を採用している。農学研究科では、副コース「農業技術経営管理学（農業版MOT）教育プログラム」（参照資料 5-5-①-イ）において、ディスカッションや韓国での短期国際研修プログラム等を通して農業経営と地域農業の革新、食と農の新しいビジネスを担う人材を育成する指導法を行っている。

資料 5-5-①-A : 講義, 演習, 実験, 実習等の授業形態別の開講状況 (部局例示: 医学系研究科)

博士課程履修モデル						
区分	基礎医学 コース	臨床医学 コース	総合支援医科学 コース	単位 数	授業形態 (履修年次)	備 考
必修 科目	基礎医学研究法	臨床医学研究法	総合支援医科学研究法	2	講義・演習 (1~3)	コース別に研究法と研究 実習の各1科目を必修 (14単位)
	基礎医学研究実習	臨床医学研究実習	総合支援医科学研究実習	12	実習 (1~3)	
共通 選択 必修 科目 I	生命科学・医療倫理	アカデミックスピーキング	アカデミックライティング	各 2	講義・演習 (1・2)	「生命科学・ 医療倫理」 を含めて, 2科目(4 単位)以上 を選択必修
	プレゼンテーション技法	情報リテラシー	患者医師関係論			
	医療教育	医療法制				
共通 選択 必修 科目 II	分子生物学的実験法	画像処理・解析法	疫学・調査実験法	各 2	講義・演習・ 実習 (1・2)	コースワー クに沿って 2科目(4 単位)以上 を選択必修
	組織・細胞培養法	組織・細胞観察法	行動実験法			
	免疫学的実験法	機器分析法	データ処理・解析法			
	電気生理学的実験法	動物実験法	アイソトープ実験法			
共 通 選 択 必 修 科 目 III	解剖・組織学特論	*臨床病態学特論 (1) - (27)	地域医療特論	各 2	講義・演習・ 実習 (1・2)	コースワー クに沿って 2科目(4 単位)以上 を選択必修 *臨床病態 学特論およ び*臨床診 断・治療学 は、別表の 細科目表 (1)-(27) から1つを 履修する。
	生理学特論	*臨床診断・治療学 (1) - (27)	健康行動科学			
	神経科学特論	臨床局所解剖学	社会生活行動支援			
	生命科学特論	人工臓器	周産期医学			
	分子生物学特論	臨床微生物学	リハビリテーション医学			
	微生物感染学特論	法医中毒論	アクセシビリティ特論			
	免疫学特論	臨床腫瘍学	健康スポーツ学特論			
	病理学特論	臨床遺伝学	食環境・環境栄養学特論			
	薬理学特論	薬物動態論	国際保健・災害医療			
	発生・遺伝子工学	映像診断学	医療情報システム論			
	基礎腫瘍学	病院経営学	認知神経心理学			
	形質人類学	老年医学	看護援助学特論			
	環境医学特論	病理診断学	緩和ケア科学特論			
	予防医学特論		医療・介護事故と ヒューマンエラー			
	法医学特論					

(出典: 医学系研究科博士課程学習要項 (平成 27 年度))

資料 5-5-①-B : 大学院課程の授業科目における学習指導上の工夫事例

研究科	授業科目	学習指導上の工夫
教育学研究科	有機化学特別演習	知識の体系化を目的とし、毎回、具体的な実験作業を行いながら、学生に模擬授業を課題として与え、教員も含むクラス全員での質疑応答を通して、実践的な技術の習得をはかった。
経済学研究科	応用統計研究	受講生間の流通経済論の習得度に大きな差があったため、講義形式と、演習形式を交互に行う形で授業を行った。
医学系研究科	解剖学特論	講義に加えて、各自の興味に沿ったテーマ（学習項目）について自己学習をした成果をプレゼンテーションする問題立脚型学習を取り入れ、プレゼンテーション及びディスカッション能力も合わせて学習するように工夫している。
工学系研究科	知能情報システム学特別講義（並列分散アルゴリズム）	質問票の回収および迅速なフィードバック。 講義冒頭に、時間をじゅうぶんとってフィードバックを行った。 レポート課題の検討会を実施し、学生にプレゼンテーションをさせた。
農学研究科	分光統計解析学特論	講義は少人数編成であり、多変量解析の課題に取り組ながら、個人の理解度に合わせて講義を進めることで内容の理解を深めるように努めている。

(出典：教育委員会作成)

参照資料 5-5-①-ア：各研究科履修細則

教育学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/687.html>)経済学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/690.html>)医学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/677.html>)工学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/693.html>)農学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/723.html>)

参照資料 5-5-①-イ：農業技術経営管理学（MOT）教育プログラム ウェブサイト

(<http://www.ag.saga-u.ac.jp/MOT/graduateschool/graduateschool.html>)

【分析結果とその根拠理由】

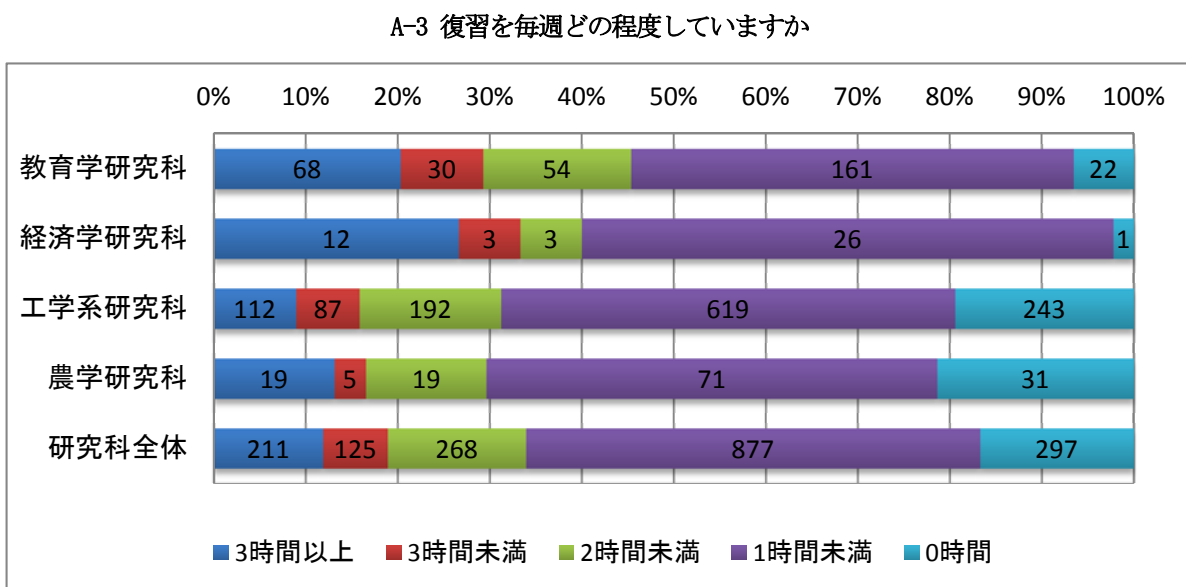
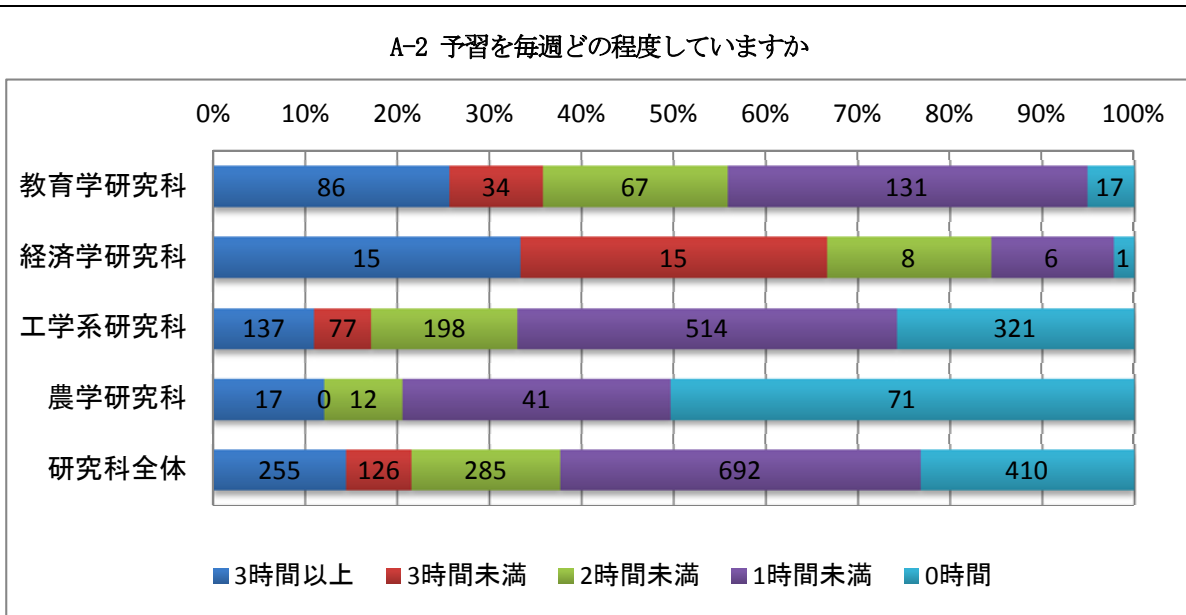
各研究科の教育の目的に照らして、講義、演習、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、日本人学生と外国人学生の共学により英語で授業を行う教育プログラム、ディスカッションや短期国際研修プログラム等を組み込んだ副コースなど、教育内容に応じた特色ある学習指導法の工夫が適切になされている。

観点 5-5-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。**【観点に係る状況】**

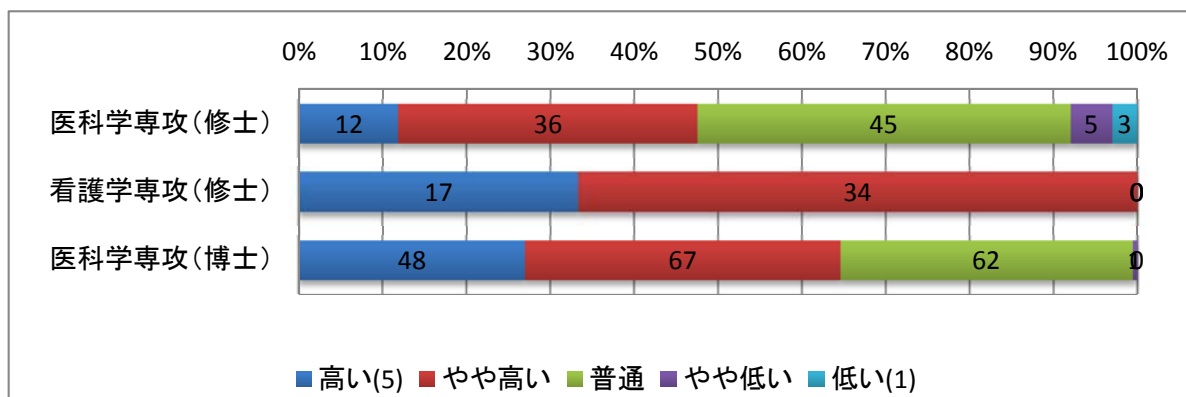
教育委員会において、1年間の授業期間が定期試験等の期間を含め35週、各授業科目が15週にわたる期間及び補講日を1週間分確保するよう学年暦を定め（参照資料 5-5-②-ア）、休講する場合の手続き及び補講等の実施について定めて（別添資料 5-2-②-1【再掲】）、実質的な授業時間を確保している。

各研究科において、履修モデル（資料 5-4-②-B【再掲】、参照資料 5-5-②-イ）やカリキュラムマップ（資料 5-4-②-A【再掲】、参照資料 5-5-②-イ）に基づき、授業科目の単位修得に係る指導を行っている。また、授業時間外の自主的学習を促すために、「シラバス作成に関する要項」（資料 5-2-③-A【再掲】）及び「シラバス作成の手引き」（別添資料 5-2-③-1【再掲】）に基づき、オンラインシラバス（参照資料 5-5-②-ウ）に授業の目的・計画や自主学習を促すための課題等を記載するとともに（資料 5-5-③-A【後掲】）、「シラバスの点検及び改善に関する要項」（資料 5-2-③-C【再掲】）及び「シラバス点検表」（資料 5-2-③-D【再掲】）に基づき、組織的にシラバスの点検を行い、準備学習等の指示を確認している。さらに、PBLを導入し授業時間外学習時間の向上を図っている科目もある（別添資料 5-5-②-1）。大学院生の授業時間以外での学習時間については、授業評価アンケートにより授業科目ごとの毎週の予習及び復習の時間として、現況を把握・分析している（資料 5-5-②-A）。その結果、文系研究科では、予習の時間が2時間以上の学生の割合が教育学研究科で35%程度、経済学研究科での65%程度に対して、工学系研究科では18%程度、農学研究科では10%程度である。一方復習の時間は、文系研究科では30%前後と相対的に予習の時間よりも短く、理系研究科では15%前後とあまり予習時間と変わらない。これらの傾向は、文系研究科では事例研究型の講義が多く発表のための予習が必要であるためと推察される。なお、医学系研究科においては、平成25年度授業評価アンケートの「復習や関連事項の自己学習の程度」を5段階で自己評価した結果によれば、各課程・専攻の平均が修士課程医科学専攻3.6、看護学専攻4.3、博士課程4.0と自己学習に取り組んでいる状況が示されている。

資料 5-5-②-A： 予習、復習に費やした時間（授業科目別）



医学系研究科授業評価アンケート 復習や関連事項の自己学習の程度



(出典：授業評価アンケート報告書（平成 26 年度）)

別添資料 5-5-②-1：PBL など授業時間外学習の向上を図っている取組例

参照資料 5-5-②-ア：平成 22～27 年度学年暦 学生センター ウェブページ
(http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakunen_reki.html)

参照資料 5-5-②-イ：各研究科履修案内/学習要項
医学系以外の研究科 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>)
医学系研究科 (<http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/index.html> から各専攻の学習要項参照)

参照資料 5-5-②-ウ：オンラインシラバス
(http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on)

【分析結果とその根拠理由】

1 年間に 35 週の授業期間、1 学期に 15 週の授業期間及び 1 週分の補講期間を確保し、十分な学習時間を確保している。また、オンラインシラバスに履修上の注意や学習課題を記載することを義務づけ、それらの記載により学生の自主学習を促しており、予習・復習等に費やした時間の調査によると、ある程度の自主学習時間が確保されている。シラバスへの学習課題の記載等は、組織的に点検して記載を確実なものとしている。これらのことから、単位の実質化への配慮がなされている。

観点 5-5-③：適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点到る状況】

学士課程と同様、全学的に統一した様式（医学系研究科を除く。）により、全ての授業科目のシラバスを「オンラインシラバス」に掲載している（参照資料 5-5-③-ア）。シラバス及び医学系研究科の「学習要項」（参照資料 5-5-③-イ）は授業内容、授業方法、評価方法など、授業の全体像を学生に示すことを目的とし、「シラバス作成の手引き」（別添資料 5-2-③-1【再掲】）に基づき、「講義概要」、「開講意図」、「到達目標」、「履修上の注意」、「授業計画」、「成績評価の方法と基準」、「試験結果の開示」、「参考図書」等を記載している（資料 5-5-③-A）。「到達目標」には当該授業科目で学生に身に付けて欲しい事柄が測定可能な表現で記載され、「授業計画」には自主的学習を促す「授業外学習の指示や課題等」を示している。また、学士課程と同様に、「シラバスの点検及び改善に関する要項」（資料 5-2-③-C【再掲】）を定め、「シラバス点検表」（資料 5-2-③-D【再掲】）に基づき、組織的にシラバスの点検を行い、シラバスの質の向上に努めている。

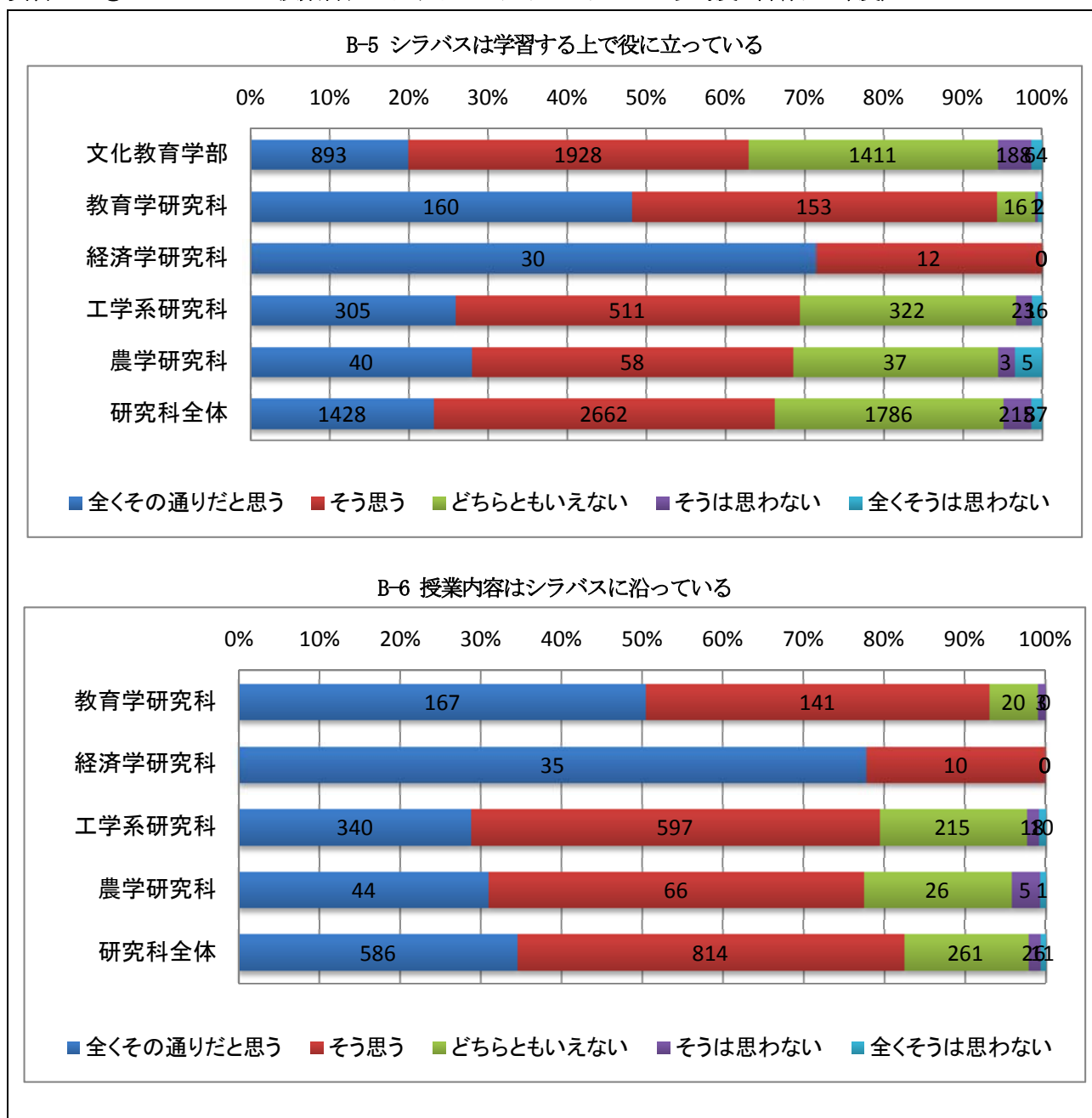
平成 26 年度の授業評価アンケートでは、「シラバスは学習する上で役に立っている」や「授業内容はシラバスに沿っている」という質問に対して、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」の否定的回答率は、最大 5%程度と低い値となっている（資料 5-5-③-B）。

資料5-5-③-A： 大学院教育課程のシラバス例（平成27年度）

開講年度	2015	開講時期	前期
コースナンバー			
科目コード	62537300		
科目名	線形計算特論		
担当教員(所属)			
単位数	2		
曜日・校時	金4		
講義形式	講義		
講義概要	<p>【講義概要】 線形計算の代表といえば、連立一次方程式や固有値の計算であるが、画像信号処理や多変量解析を行う場合、それだけでは不十分である。そこで、本講義では、特異値や一般化逆行列など、といった現実の問題でよく現れる事柄について説明する。</p> <p>【授業方法】 講義、演習、ネット授業などを組み合わせて行う。</p>		
開講意図	ベクトルや行列のノルムやその性質、固有値分解や特異値分解などを理解し、これらを画像信号処理などへ応用できる素養を身に付ける。		
到達目標	<p>(1) 行列とベクトルの基本的な性質(積、内積、外積、ランク、逆行列など)やベクトルで張られる空間の性質が理解できる。 (2) 行列とベクトルの直交性について理解できる。 (3) 行列とベクトルのノルムについて理解できる。 (4) 固有値分解と特異値分解について理解できる。 (5) 射影の考え方が理解できる。</p>		
授業計画	講義の進捗状況によっては、順序を変更したり、扱う内容を増減することがある。 また、特異値分解と画像信号処理に関する文献も適宜紹介する。		
	回	内容	授業以外の学習
	1	講義の概要とベクトル・行列の積	課題1を行うこと。
	2	零空間、像空間、ランク、逆行列の関係	課題2を行うこと。
	3	随伴行列、内積、ベクトルの直交性とユニタリ行列	課題3を行うこと。
	4	行列とベクトルのノルムの基礎	課題4を行うこと。
	5	ノルムとその性質	課題5を行うこと。
	6	特異値分解の概要	課題6を行うこと。
	7	特異値分解の数学的な定義と存在・一意性	課題7を行うこと。
	8	特異値分解と固有値分解	課題8を行うこと。
	9	特異値分解に基づく行列の性質	課題9を行うこと。
	10	行列のランクと行列の近似	課題10を行うこと。
	11	特異値分解のまとめ	課題11を行うこと。
	12	射影とそれによる補空間	課題12を行うこと。
	13	正規直交基底による射影	課題13を行うこと。
	14	任意の基底による射影	課題14を行うこと。
15	講義のまとめ・画像信号処理への線形計算の応用	課題15を行うこと。	
成績評価の方法と基準	<p>到達目標(1)～(5)を、毎回のレポートを20点満点(合計300点満点)として評価し、合計180点以上で合格とする。ただし、すべての課題が提出されていない場合は、評価を「不可」とする。なお、定期試験は実施しない。</p> <p>(1) 行列とベクトルの基本的な性質(積、内積、外積、ランク、逆行列など)やベクトルで張られる空間の性質が理解できる。 (2) 行列とベクトルの直交性について理解できる。 (3) 行列とベクトルのノルムについて理解できる。 (4) 固有値分解と特異値分解について理解できる。 (5) 射影の考え方が理解できる。</p> <p>目標(1)は課題1,2,3で評価する 目標(2)は課題3,4で評価する 目標(3)は課題4,5で評価する 目標(4)は課題6,7,8,9,10,11で評価する 目標(5)は課題12,13,14,15で評価する</p>		
開示する試験問題等	レポート課題および配点・採点ポイントを講義用Webページで公開するか、講義中に解説する。		
開示方法	開示を希望する人は、オフィスアワーに教員研究室へ来ること。		
教科書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考(巻冊:上下等)		ISBN
	特に指定しない		
参考図書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考(巻冊:上下等)		ISBN
	Numerical Linear Algebra L.Loyd N. Trefethen and David Bau, III		SIAM 1997
リンク	担当教員のティーチング・ポートフォリオ(教育理念・方法)		
オフィスアワー	木曜日5校時、随時(メールで事前予約をすること)		

(出典：オンラインシラバス)

資料 5-5-③-B: 授業科目におけるオンラインシラバスの参考度 (平成 26 年度)



(出典：授業評価アンケート報告書 (平成 26 年度))

参照資料 5-5-③-ア：オンラインシラバス

(http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on)参照資料 5-5-③-イ：医学研究科「学習要項」(<http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/index.html>)より各専攻のページへ

【分析結果とその根拠理由】

シラバスに、講義概要、開講意図、到達目標、授業計画、成績評価の方法と基準、試験結果の開示、参考図書等の項目を記載し、全ての授業科目について「オンラインシラバス」上又は「学習要項」に掲載して、学生に周知している。これらのことから、教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されている。

観点 5-5-④： 夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例）を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

大学院学則第 7 条及び第 12 条（資料 5-5-④-A）に教育方法の特例（大学院設置基準第 14 条）を定め、経済学研究科、医学系研究科及び農学研究科において、夜間における授業を実施している（資料 5-5-④-B）。経済学研究科では、在職中の社会人学生に配慮して、夜間に実施する授業科目のみで修了に必要な単位を修得できるよう、Ⅵ校時（18：00～19：30）、Ⅶ校時（19：40～21：10）に授業時間割を構成し、指導を行っている。医学系研究科では、「緩和ケア特論」及び「健康スポーツ特論」の授業を夜間又は土曜日午後に公開授業として開講し、社会人学生に配慮した時間割設定を行っている。農学研究科においても、教育方法の特例による授業を 14 単位まで課程修了に必要な単位数（30 単位）に含めることができるよう配慮し、社会人を主対象とする副コース（農業技術経営管理学コース）のうち、社会人が受講する科目を夜間又は集中講義によって開講するよう配慮している。

資料 5-5-④-A： 夜間における授業の実施に係る規則（大学院学則抜粋）

（修士課程及び博士前期課程の標準修業年限）

第 7 条 修士課程及び博士前期課程の標準修業年限は、2 年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、2 年を超えるものとすることができる。

2 前項の規定にかかわらず、修士課程及び博士前期課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を 1 年以上 2 年未満の期間とすることができる。

（教育方法）

第 12 条 大学院における教育は、授業科目の授業及び研究指導により行う。

2 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

3 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められた場合には、他の国立の研究所等の研究者を大学院教員に併任する等の方法により、当該研究所等において授業又は研究指導を行うこと（連携大学院方式と称する。）ができる。

（出典：佐賀大学大学院学則）

資料 5-5-④-B : 平成 26 年度における夜間開講授業の開講状況

【経済学研究科】

前 学 期			後 学 期		
授業科目	校時	受講者数	授業科目	校時	受講者数
金融経済論研究	6	3	上級マクロ経済学研究	6	0
数理経済分析研究	7	2	経済政策論研究	6	1
農業経済論研究	7	2	日本アジア比較経済史研究	6	3
地域政治研究	6	3	地域経済論研究	6	0
流通経済論研究	6	8	行政基礎法研究Ⅱ	6	1
契約法研究	7	3	応用統計研究	6	1
簿記論研究	6	1	現代労使関係研究Ⅱ	6	3
環境法研究Ⅱ	7	2	財務会計論研究	6	1
民法研究Ⅰ	6	1	管理会計論研究Ⅱ	6	3
情報基礎	6	5			
実用外国語	6	3			

(出典：ライブキャンパスデータ)

【医学系研究科】

前 学 期			後 学 期		
授業科目	校時	受講者数	授業科目	校時	受講者数
心理学的社会生活行動支援特論	5・6	5			
健康スポーツ医学特論	6・7	7			
緩和ケア特論	6・7	14			
健康スポーツ学特論	6・7	2			

(出典：医学部学生サービス課データ)

【農学研究科】

前 学 期			後 学 期		
授業科目	校時	受講者数	授業科目	校時	受講者数
土壌学特論	6	6	農業政策学特論	6	8
農産物市場流通特論	6	13	地域農業組織特論	6	9
農業技術経営管理学概論	6	19	応用植物生理学特論	6	2
国際環境保健学特論	6	2	農地計画学特論	6	7
農村地理学特論	6	10	食品機能学特論	6	1
施設農業生産学特論	6	5	経営者論	6	3
農村社会学特論	6	9	土壌物理学特論	7	4
農業技術経営管理学演習	6・7	12	佐賀農業論	7	4
実践マーケティング論	7	9	作物生産学特論	7	5
生産情報処理学特論	7	3	食品化学特論	7	1
環境社会学特論	6	6	ケース分析特別演習	6	1
			農村景観保全学特論	6	7

(出典：ライブキャンパスデータ)

【分析結果とその根拠理由】

教育方法の特例により、社会人学生が無理なく授業科目を履修できるように時間割を編成し、授業を実施していることから、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われている。

観点 5-5-⑤： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-5-⑥： 専門職学位課程を除く大学院課程においては、研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて指導が行われているか。

【観点に係る状況】

大学院学則及び各研究科規則（参照資料 5-5-⑥-1）により、研究指導及び学位論文の作成を通して研究能力を培うことを定め、学生ごとに指導教員を置くことを各研究科規則で定めており、博士課程では複数教員による指導体制をとっている。各研究科・専攻は、履修案内又は学習要項に「研究指導計画」を記載して具体的な研究指導方法を示し（参照資料 5-5-⑥-1）、中間発表会や総合セミナー、学位論文予備審査会などによる研究進捗状況の確認と助言指導を実施するとともに（資料 5-5-⑥-A）、学会及び学会誌での発表促進などによりプレゼンテーション力、コミュニケーション能力、研究能力等を育成している（資料 6-1-①-F【後掲】）。

また、大学院生の研究指導の強化を図るため、「佐賀大学大学院における研究指導計画に基づく研究指導報告の実施要領」（別添資料 5-5-⑥-1）を定め、学生ごとに研究指導計画を立て、研究指導実施経過、研究指導の点検・評価に関する報告を実施しており（別添資料 5-5-⑥-2）、平成 26 年度入学生より半期ごとにポートフォリオ学習支援統合システム上で研究指導実施報告を行っている。なお、各研究科は、学位審査において研究指導報告書を確認して、適切な計画に基づいた指導がなされたことを担保している（別添資料 5-6-④-2【後掲】）。さらに、産業界との連携（工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀）など、研究指導を充実する取組が各研究科において実施されている（資料 5-5-⑥-B）。

資料5-5-⑥-A： 研究指導計画に基づく中間発表審査会（部局例示：医学系研究科博士課程）

コース必修科目

＝佐賀大学大学院医学系研究科博士課程＝
平成27年度 論文研究中間発表審査会実施要領

・日 時

7月29日（水） 時間については下記のとおり。

※ 以降も7月最終週を予定

	準備時間	ポスター展示時間	発表時間	撤去時間
基礎医学コース	13:00 ～ 15:00	15:00 ～ 17:30	17:30 ～	各コースの発表会終了後、速やかに撤去すること。
臨床医学コース	13:00 ～ 15:00	15:00 ～ 17:30	17:30 ～	
総合支援医科学コース	13:00 ～ 15:00	15:00 ～ 17:30	17:30 ～	

※ ポスター貼付けは準備時間内に完了し、撤去は、各自の責任において行うこと。

※ 審査会終了後もポスター等が掲示されている場合には、学生サービス課でポスター等を処分するので、各コースの発表会終了後に必ず撤去すること。

・場 所

「基礎医学コース」・・・大学院講義室1（2427室）

「臨床医学コース」・・・大学院講義室2（2424室）

「総合支援医科学コース」・・・大学院講義室1（2425室）

※ 基礎研究棟，臨床研究棟の4階

・発表内容等

① 発表は、ポスター発表の形式とし、言語は日本語あるいは英語とする。

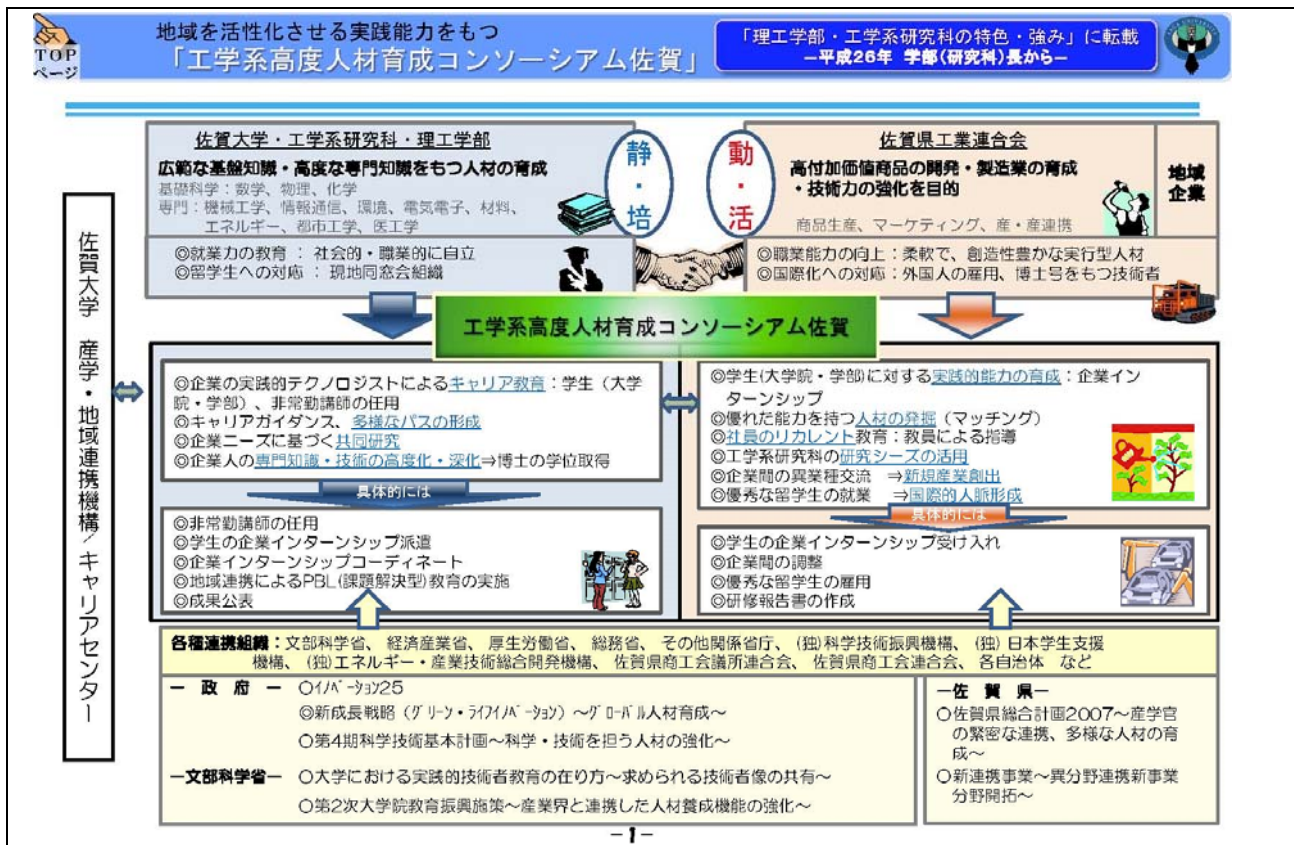
② 発表時間は5分、質疑応答は2分とする。

・ポスター作成および展示要領

別に定める『ポスター作成および展示要領』による。

(出典：医学系研究科博士課程学習要項シラバス（平成27年度）)

資料 5-5-⑥-B： 工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀 概要



(出典：佐賀大学の取り組み (Archive))

別添資料 5-5-⑥-1：佐賀大学大学院における研究指導計画に基づく研究指導実施要領
 別添資料 5-5-⑥-2：研究指導実績報告書例

参照資料 5-5-⑥-ア：各研究科規則
 教育学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/686.html>)
 経済学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/689.html>)
 医学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/676.html>)
 工学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/692.html>)
 農学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/722.html>)

参照資料 5-5-⑥-イ：各研究科・専攻 研究指導計画
 教育学研究科 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>) に入り
 「教育学研究科 H27 年度入学」をクリック 22 頁
 経済学研究科 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>) に入り
 「経済学研究科 H27 年度入学」をクリック 11 頁
 医学系研究科 (https://www.gab.med.saga-u.ac.jp/daigakuin/hp/doctor_medical/2download/1.pdf) p7
 工学系研究科 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>) に入り
 「工学系研究科 H27 年度入学」 各専攻の研究指導計画
 農学研究科 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>) に入り
 「農学研究科 H27 年度入学」 13 頁

【分析結果とその根拠理由】

学生ごとに指導教員(副指導教員を含む。)を置く指導体制を整え、研究指導教員は、学生ごとに個別の研究指導計画書を作成し、計画に沿って研究及び論文作成に係る指導を実施している。ポートフォリオ学習支援統合シ

システムの研究指導実施報告書により、学生と指導教員の相互で点検・改善の取組が成されるとともに、学位審査において研究指導実施報告書を確認して、適切な研究指導の実践を担保している。これらのことから、教育課程の趣旨に沿った研究指導、学位論文に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて行われている。

観点 5-6-①： 学位授与方針が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

佐賀大学大学院学則第2条に規定する目的「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」及び各研究科の教育目的に照らして、各研究科は専攻ごとに、修得すべき具体的学習成果の達成を学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）として定めている（資料5-6-①-A、参照資料5-6-①-ア）。

資料 5-6-①-A： 学位授与の方針例（経済学研究科修士課程）

**学位授与方針
(ディプロマ・ポリシー)**

経済学研究科修士課程の学位授与の方針は、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）における、経済学研究科の教育目的および目的を実現するための教育目標に基づき、以下に示す各項目を身に付けさせることである。

学修の成果に係る評価および修了の認定の客観性と厳密性を確保するため、学生に対してすべてのシラバスにおいて、成績評価基準をあらかじめ明示し、その基準に従って適切に評価すると共に、異議申し立て制度により成績評価の正確性を保証する。

大学院学則に定める単位を修得し修士論文を提出した者について修了判定を行い、合格とされた者に対し、経済学研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定し学位を授与する。

【金融・経済政策専攻 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

[学生に身につけさせる能力]

1. 国際経済，国民経済，地域経済に関する広く基本的な問題についての基礎知識を修得している。
2. 情報処理や外国語能力等の研究するための基礎的スキルを修得している。
3. 国際経済，国民経済，地域経済の中で生起する諸問題を理論的，歴史的，政策的に把握，解明し，その解決策を見出す能力を修得している。
4. 国際経済，国民経済，地域経済の中で生起する諸問題に関する個別的・具体的課題を設定して理論的，実践的に研究を深め，論文作成およびプレゼンテーション能力を修得している。

[学位の審査方法]

学生の取得単位数を研究科教務委員会において確認し，修士論文審査報告書および研究指導報告書を基に研究科委員会で判定，議を経て修了認定を行う。

(出典：経済学研究科 履修案内（平成27年度）)

参照資料5-6-①-7：学位授与の方針：<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html>

教育学研究科 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html> に入り「教育学研究科 H27 年度」をクリック

経済学研究科 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html> に入り「経済学研究科 H27 年度」をクリック

医学系研究科 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html> に入り「医学系研究科 H27 年度」をクリック

工学系研究科 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html> に入り「工学系研究科 H27 年度」をクリック

農学研究科 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html> に入り「農学研究科 H27 年度」をクリック

【分析結果とその根拠理由】

大学院の目的及び研究科・専攻の教育目的に照らして、修得すべき具体的学習成果の達成を学位授与の方針としており、各研究科の専攻ごとに学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に定めている。

観点 5-6-②： 成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

【観点到る状況】

成績の判定及び評価基準は、大学院学則第 13 条の 3 ならびに第 50 条の規定（資料 5-6-②-A）により「佐賀大学成績判定等に関する規程」（資料 5-3-②-A【再掲】）を大学院に準用することで定めている。これらの成績評価の基準は、入学時の大学院オリエンテーションで配布する「学生便覧」及び履修案内（参照資料 5-6-②-ア）に掲載し、専攻ごとの教務ガイダンス等で学生に周知している。また、学士課程と同様に、授業科目ごとの成績評価の方法・基準を「シラバス作成の手引き」（別添資料 5-2-③-1【再掲】）に従って、各科目のオンラインシラバスに明記し（資料 5-5-③-A【再掲】）、学生に周知するとともに、その基準に沿って成績評価を行っている。なお、これらの基準が学生に周知されていることが授業評価アンケート調査で示されている（資料 5-6-②-B）。

さらに、GPA 制度（観点 5-3-②にて前述）についても、学士課程と同様、総合 GPA 及び学期毎 GPA を学生本人の成績表に明記するとともに、全授業科目について成績（GPA）分布に基づいた図表を作成し（別添資料 5-6-②-1）、各研究科において組織的に成績評価の適切性を検証している（資料 5-6-②-C）。また、「GPA を用いた学修指導計画」（別添資料 5-6-②-2）を策定して実施している。

資料 5-6-②-A： 大学院学則第 13 条の 3 ならびに第 50 条

（成績の判定）

第 13 条の 3 学生が一の授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

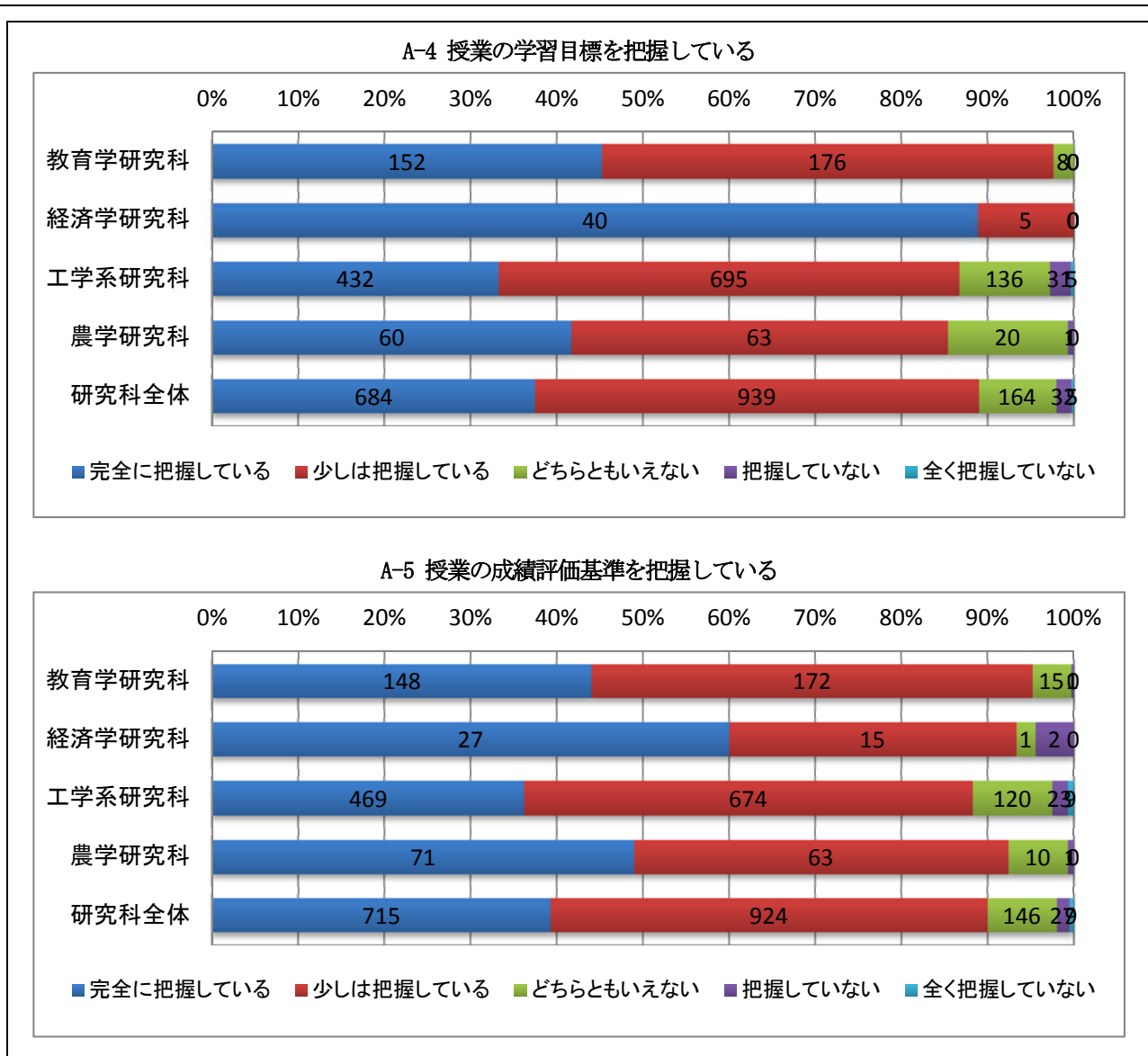
2 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

（準用規定）

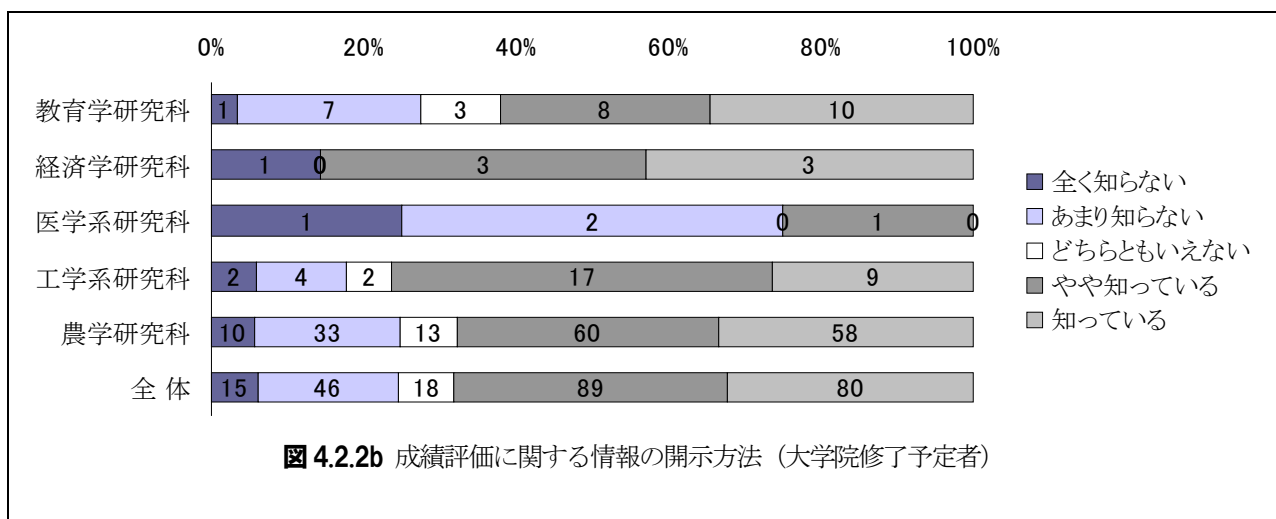
第 50 条 大学院の学生に関しては、この大学院学則に定めるもののほか、学則及び本学の諸規則等の学生に関する規定を準用する。この場合において、「学部」とあるのは「研究科」と、「学部長」とあるのは「研究科長」と、「教授会」とあるのは「研究科委員会等」と、それぞれ読み替えるものとする。

（出典：大学院学則）

資料 5-6-②-B： 授業の評価基準の周知状況（平成 26 年度授業評価アンケート，学生対象調査）



(出典：授業評価アンケート報告書（平成 26 年度）)



(出典：佐賀大学学生対象調査（在校生・卒業・修了予定者対象）報告書（平成 26 年度）)

資料 5-6-②-C : 平均GPAや成績分布に基づく成績評価の妥当性検証例

大学院：工学系研究科
IR 室から提供された、各授業科目の成績度数分布をもとに、各学科で授業科目ごとの成績分布を点検した。

学科	検討状況	今後の改善策
数理学専攻	科目により成績分布にかなり違いが見られるが、いくつかの科目で「可」に多く集まる傾向が見られる。	学生の学力レベルの違いを考慮して、学部・大学院の数学との関連性を丁寧に説明しながら、講義をすすめる。
物理学専攻	資料に基づき、教務委員が必修科目について成績評価の妥当性を確認した結果、特に不適切に評価が行われたと見られる科目はなかった。	現在のところ、喫緊に改善を要する科目は見られない。
知能情報システム学専攻	成績分布は優と秀に偏っており、合格率が特別に低い科目もない。これは、学部生の上位 30%のみが進学するという学科の特性を反映して、優秀な学生が多いためであり、問題はないと考える。	現時点では大きな改善が必要な科目はない。今後の点検により問題が判明した場合には、速やかに対応する予定である。
循環物質化学専攻	ほとんどの科目で正規分布に近い成績配分になっている。昨年度に比べてこの割合は増加している。	H26 年度に関しては不具合のある科目は確認されなかったが、今後成績分布が不釣り合いな科目が出た際には専攻会議にて検討を行う。
機械システム工学専攻	教務 (JABEE) グループ委員会議において資料を基に必修科目に相当する科目についての成績評価の妥当性の確認を行った。その結果、いずれの科目も適切に評価が行われていることを確認した。	現時点では特別に改善が必要な科目はないが、今後もこのような成績の確認を教務 (JABEE) グループ委員会議で行い、極端に合格率が低い科目については対応策を話し合い、改善を図ることが確認された。
電気電子工学専攻	科目グループ会議、カリキュラム検討委員会において、提供された資料をもとに必修科目の成績分布を点検した。その結果、全ての必修科目で妥当な成績評価が行われていることを確認した。	現時点で改善が必要と判断された科目はないが、今後も定期的に点検を行うことが確認された。
都市工学専攻	ほとんどの科目において正規分布に近い分布となっているが、一部、秀の割合が多い科目が見られた。	秀の割合が多い科目は、指導教員による直接指導が十分にされる性質の科目であり、評価方法に問題はないと思われる。その他は特に改善を要する科目は見られない。
先端融合工学専攻	専攻会議において、資料を基に必修科目に相当する科目についての成績評価の妥当性の確認を行った。その結果、いずれの科目も適切に評価が行われていることを確認した。	現時点では特別に改善が必要な科目はないが、今後もこのような成績の確認を専攻で行い、極端に合格率が低い科目については対応策を専攻で話し合い、改善を図ることが確認された。

(出典：教育委員会教務専門委員会資料)

別添資料5-6-②-1：組織的な成績評価の妥当性検証のための授業科目の成績(GPA)分布例 (平成26年度)

別添資料5-6-②-2：GPAを用いた学修指導計画 (大学院版)

参照資料5-6-②-7：各研究科履修案内/学習要項

医学系以外の研究科 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>)医学系研究科 (<http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/index.html>から各専攻の学習要項参照)

【分析結果とその根拠理由】

学士課程と同様の成績評価の基準を用いることを大学院学則等に定め、学生便覧等に掲載するとともにウェブサイトで公開し、研究科・専攻ごとの教務ガイダンス等により学生に周知している。また、授業科目ごとの成績評価の方法・基準を各授業科目のオンラインシラバスに明記し、これらに従って成績評価、単位認定を行っている。学生は、これらの成績評価基準をよく認識している。さらに、全授業科目の成績評価の成績(GPA)分布に基づき組織的に成績評価、単位認定の適切性を検証している。以上のことから、教育の目的に応じた成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、適切に成績評価、単位認定がなされている。

観点 5-6-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

各研究科では、学士課程と同様、成績評価の厳格性を担保するための措置として、「シラバス作成の手引き」に基づき科目の到達目標を測定可能なように明記し、これを「シラバスの点検及び改善に関する要項」及び「シラバス点検表」（資料 5-2-③-C～D【再掲】）に基づき点検している。さらに、全科目について成績や平均 GPA に基づいた図表を作成し（別添資料 5-6-②-1【再掲】）、各部局において、成績評価の妥当性を検証している（資料 5-6-②-C【再掲】）。

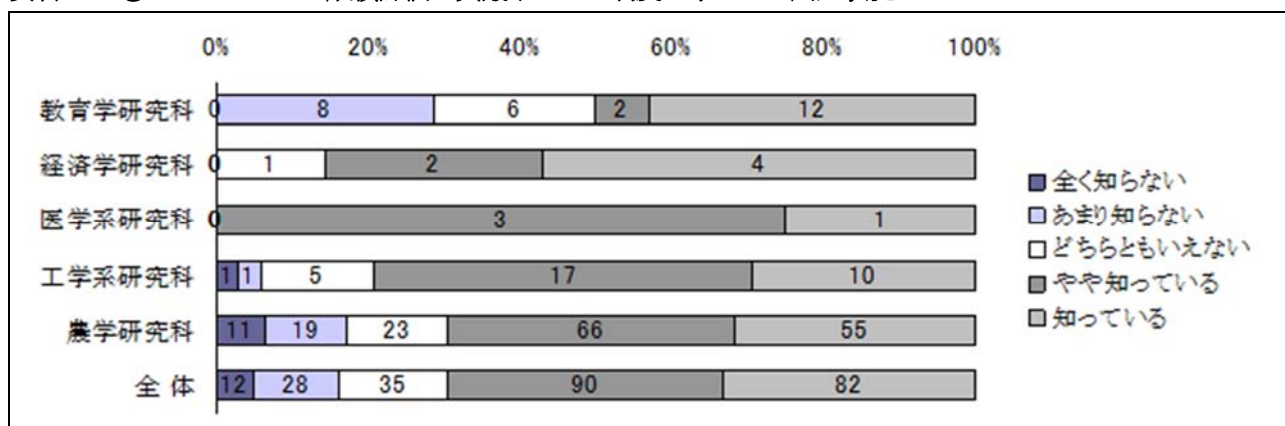
また、「成績評価の異議申し立てに関する要項」（資料 5-3-③-A【再掲】）に基づき、学生は担当教員に申し出て、成績評価の根拠となった答案、レポート等を閲覧できるようにし、シラバスにおいても「開示する試験問題等」を記載して（資料 5-6-③-A）、学生に周知している（資料 5-6-③-B）。学生は、成績評価に異議がある場合には、研究科長に異議を申し立てることができるものとし、当該研究科の教育に関する委員会での申し立ての内容等を調査・検討し、教授会の議を経て対応している。

資料 5-6-③-A： 試験問題、解答例等の開示方法の周知状況

開示する試験問題等	<p>前年度実施分については、以下のものを事前に提示する。</p> <p>(1)レポート等の課題 (2)レポート等の解答例または出題の意図 (3)配点</p> <p>今年度実施分については、以下のものを開示する。</p> <p>(1)客観テストおよびレポート (2)採点結果の詳細</p>
開示方法	<p>前年度実施分については、履修予定者に授業の第1回(オリエンテーション)で資料等を配布する。今年度実施分については、成績報告完了後、履修者の求めに応じて開示する。</p>

(出典：オンラインシラバス)

資料 5-6-③-B： 成績評価の異議申し立て制度の学生への周知状況



(出典：佐賀大学学生対象調査（在校生・卒業・修了予定者対象）報告書（平成 26 年度）)

【分析結果とその根拠理由】

成績評価の方法と基準をシラバスに記載し、その内容を組織的に点検して、成績評価の客観性、厳格性を担保するとともに、全科目について成績や平均 GPA に基づいて、成績評価の妥当性を検証している。また、成績評価の異議申し立て制度を導入し、学生に周知されている。これらのことから、成績評価の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられている。

観点 5-6-④： 専門職学位課程を除く大学院課程においては、学位授与方針に従って、学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制の下で、修了認定が適切に実施されているか。

また、専門職学位課程においては、学位授与方針に従って、修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、修了認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

大学院学則第 21 条、学位規則、各研究科規則（参照資料 5-6-④-ア～イ）に基づき、学位論文に係る評価基準が、教育学研究科は「修士論文の評価・認定基準」、経済学研究科は「修士論文要領」、医学系研究科は「学位論文審査の方法および審査基準」、工学系研究科は「学位の授与に関する取り扱い要領」、農学研究科は「修士論文および最終試験の評価基準」として策定されている。なお、全ての研究科において、修了要件単位を修得し、適切な研究指導を受け、学位授与の方針が示す学習成果を修了時に身につけていることが、課程の修了要件に含まれている。

これらの学位論文に係る評価基準や学位論文審査申請に係る学位論文の体裁や内容等を定めた要領等は、履修案内や学習要項に掲載して、学生に周知しており（資料 5-6-④-A、参照資料 5-6-④-ウ）、学生対象調査の結果から、学生は修了認定基準をよく知っていると思われる（資料 5-6-④-B）。

審査体制は、大学院学則第 21 条、学位規則、各研究科規則（参照資料 5-6-④-ア～イ）に基づき、研究科委員会が研究科の教員の中から 3 人以上の学位論文審査員を選出し、うち 1 人を主査とする審査員組織で行っている（別添資料 5-6-④-1、参照資料 5-6-④-エ～オ）。ただし、必要があるときは、研究科委員会の議を経て、研究科委員会の構成員以外の者を審査員に加えることができる審査体制をとっている。

審査に当たっては、研究科委員会において、学位論文提出の資格要件審査、提出論文の要件審査、審査員の選出を行い、審査員による研究指導実施報告書による適切な研究指導の確認、公開審査及び最終試験の結果報告（別添資料 5-6-④-2）を受けて、研究科委員会の議を経て、学長が学位を授与している。

資料5-6-④-A： 学位論文審査基準例（経済学研究科 修士論文要領）

修 士 論 文 要 領

平成16年4月1日経済学研究科委員会制定

(提出者)

- 1 所定の授業科目の単位を修得した者又は修得見込みの者は、修士論文を提出し、学位を申請することができる。

(提出書類)

- 2 修士の学位を申請する場合は、以下の書類を期限までに提出するものとする。

- | | |
|-----------|----------------------|
| (1) 学位申請書 | 1部 |
| (2) 修士論文 | 4部（3部はコピーとすることができる。） |
| (3) 論文要旨 | 4部（3部はコピーとすることができる。） |

(提出期限)

- 3 修士論文の提出期限は、1月10日午後5時とし、論文題目の提出期限は、前年12月20日午後5時までとする。（期限日が土曜、日曜、休日の場合は、直後の平日を期限日とする。以下この項において同じ。）

なお、9月に修了が予定される者の修士論文の提出期限は、修了年度の7月10日午後5時とし、論文題目の提出期限は、6月20日午後5時までとする。

(使用言語)

- 4 修士論文は日本語を原則とする。なお、外国語については申出により別途考慮する。

(字数)

- 5 修士論文の字数は2万字（例400字詰原稿用紙50枚）以上とし、併せて論文要旨（1,000字以内）を提出するものとする。ただし、修士論文の字数については申出により、内容及びテーマを勘案して別途考慮することがある。

なお、外国語論文の字数（論文要旨の字数も含む。）については、上記3の考慮の際併せて考慮する。

(言語と字数に別途考慮を求める者の手続)

- 6 上記3及び4に規定する別途考慮を求める者は、あらかじめその旨を指導教員に申し出て、許可を受けなければならない。

なお、許可を受けた場合は、論文題目提出時にその旨を付記するものとする（付記のない場合は、2万字以上の日本語による論文提出予定者とみなす。）。許可、不許可は指導教員が通知する。

(用紙)

- 7 修士論文及び論文要旨に原稿用紙を用いる場合は、A4判400字詰原稿用紙を使用するものとする。ワープロを用いる場合は、A4判白紙を使用し、全角を1字として1ページに1,200字程度となるよう印字するものとする。

(口頭試問)

- 8 修士論文提出者は、指導教員が指定する日時（2月中を予定）に論文に関する口頭試問を受けなければならない。

なお、9月に修了が予定される者については、8月中に実施する。

(修士論文の評価基準)

- 9 修士論文の評価基準は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 修士論文の題目に関する文献・資料を広く渉猟していること。
- (2) 当該研究分野の既存の研究動向をよく踏まえていること、そして独自の分析視点が組み入れられていること。
- (3) 上記の内容が首尾一貫性を有し、目次、結論、論文要旨を通じ、論文全体の構成が明快になっていること。
- (4) 修士論文審査における質疑応答において明晰な論文内容・趣旨が報告・説明されること。

(出典：経済学研究科履修案内（平成27年度）)

資料 5-6-④-B : 所属する研究科での修了認定基準の周知状況 (平成 26 年度)



(出典：佐賀大学学生対象調査 (在校生・卒業・修了予定者対象) 報告書 (平成 26 年度))

別添資料 5-6-④-1 : 学位審査委員の選出資料 (平成 26 年度)

別添資料 5-6-④-2 : 学位審査結果報告資料例 (平成 26 年度)

参照資料 5-6-④-ア : 佐賀大学学位規則 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/345.html>)

参照資料 5-6-④-イ : 各研究科規則

教育学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/686.html>)

経済学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/689.html>)

医学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/676.html>)

工学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/692.html>)

農学研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/722.html>)

参照資料 5-6-④-ウ : 各研究科履修案内/学習要項

医学系以外の研究科 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>)

医学系研究科 (<http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/index.html>) から各専攻の学習要項参照

参照資料 5-6-④-エ : 各研究科の学位論文の審査体制等に係る細則・申合せ

医学系研究科 佐賀大学大学院医学系研究科学位授与実施細則 (第 2~7 条)

(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/682.html>)

参照資料 5-6-④-オ : 学位論文の提出、審査及び審査員に関する申合せ

医学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/683.html>)

工学系研究科 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/696.html>)

【分析結果とその根拠理由】

学位授与の基準を大学院学則、学位規則等に定め、学位論文の評価基準や学位論文審査の手続きに係る事項を履修案内などに掲載し、学生に周知している。学位論文は審査員による公開審査等の結果に基づき、研究科委員会の議を経て、学長が学位を授与している。これらのことから、学位論文に係る評価基準が組織的に策定されるとともに、学生に周知されており、適切な審査体制が整備され、修了認定が適切に実施されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 学士課程において身につける学修成果を佐賀大学学士力や学位授与の方針として体系的に定め、教育課程を学修成果の体系性に基づいて編成している。さらに、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針とのクロスチェック表を作成して、教育課程の体系性と順次性を明らかにしている。
- 大学と社会を接続し、個人と社会の持続的発展を支える力の育成を目指す「インターフェース科目」、環境キャリア教育プログラム等、多様なニーズに応える教育プログラムを開講している。
- インターンシップ、グループワーク、PBL・TBLなど、教育の目的に応じてさまざまな授業形態や学習指導法を工夫している。
- ラーニング・ポートフォリオを全学的に導入して学生の学習履歴等を把握し、チューター（担任）制度と連携してきめの細かい指導を行っている。
- シラバスの組織的な点検を実施して、シラバスの内容を適切な内容に保つとともに、全科目のシラバスにおいて学習課題を提示するなど、学生の主体的な学びを促進して、単位の実質化に配慮している。
- 大学院における研究指導実施状況を半期ごとにポートフォリオ学習支援統合システムに報告し、その報告を研究指導の修了要件として、研究指導の適切な実施を確保している。

【改善を要する点】

- 授業時間外の学習時間は必ずしも十分といえる状況にはないため、今後、反転授業やアクティブ・ラーニングの手法をより多くの授業科目に取り入れることにより、単位の実質化をさらに進めることが今後の課題である。
- 大学院修士（博士前期）課程においても、博士（博士後期）課程と同様な複数指導教員体制を早急に構築し、教育・研究指導の強化を図ることが今後の課題である。

